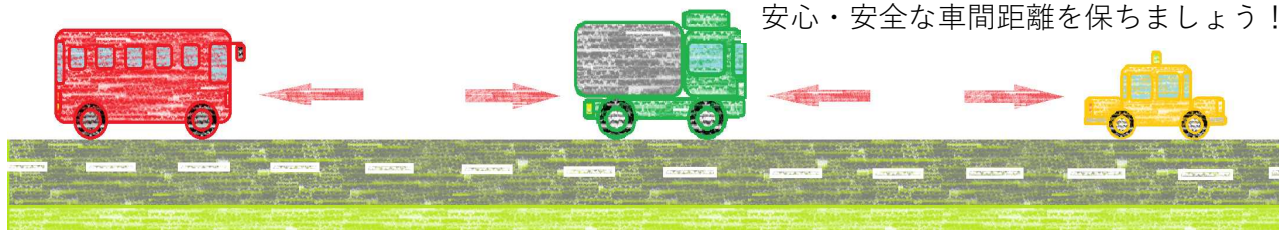


令和4年中の 事業用自動車等の交通事故の概況

くるまにも **ソーシャルディスタンス**

安心・安全な車間距離を保ちましょう！



令和5年8月



近畿運輸局

目次

用語の意味	1
-------	---

【Ⅰ】交通事故の概況

1. 全国の交通事故件数及び死傷者数	3
2. 全国の交通事故件数及び死傷者数(月別)	4
3. 飲酒別交通事故件数及び死亡事故件数の推移	5
4. 近畿運輸局管内の交通事故件数及び死傷者数	6

【Ⅱ】近畿運輸局管内の事業用自動車の事故概況

1. 自動車事故報告書届出件数の推移	9
2. 各府県別自動車事故報告書届出件数	10
3. 業態別自動車事故報告書届出件数	11
4. 事故100件あたりの死傷者数(車両故障を除く)	12
5. 事故の種類別件数及び死者数	13
6. 事故の種類別件数の推移	14
7. 高速自動車国道・自動車専用道路における事故件数及び死傷者数	17
8. 月別・曜日別・時間別事故件数	18
9. 運転者の状態別事故件数(乗務員に起因する事故)	19
10. 事故発生地点の道路状況別事故件数	21
11. 危険認知時の速度別事故件数(車両故障を除く)	22
12. 車両故障に係る事故件数	23
13. 死傷・衝突事故の内訳	23
14. バスの車内事故件数	24
15. まとめ	25

用語の意味

1. 本冊子内「【Ⅱ】近畿運輸局管内の事業用自動車の事故概況」での「事故」とは、自動車事故報告規則第2条に規定する「事故」をいう。
2. 「事故」とは、次のいずれかに該当する自動車の事故をいう。
 - (1) 自動車が転覆し、転落し、火災(積載物品の火災を含む。以下同じ。)を起こし、又は鉄道車両(軌道車両を含む。以下同じ。)と衝突し、若しくは接触したもの
 - (2) 10台以上の自動車の衝突又は接触を生じたもの
 - (3) 死者又は重傷者を生じたもの
 - (4) 10人以上の負傷者を生じたもの
 - (5) 自動車の積載された危険物等の全部若しくは一部が飛散し、又は漏えいしたもの
 - (6) 自動車の積載されたコンテナが落下したもの
 - (7) 操縦装置又は乗降口の扉を開閉する操作装置の不適切な操作により、旅客に傷害が生じたもの
 - (8) 酒気帯び運転、無免許運転、大型自動車等無資格運転又は麻薬等運転を伴うもの
 - (9) 運転者の疾病により、事業用自動車の運転を継続することができなくなったもの
 - (10) 救護義務違反があったもの
 - (11) 自動車の装置の故障により、自動車が運行できなくなったもの
 - (12) 車輪の脱落、被牽引自動車の分離を生じたもの(故障によるものに限る。)
 - (13) 橋脚、架線その他の鉄道施設を損傷し、3時間以上本線において鉄道車両の運転を休止させたもの
 - (14) 高速自動車国道又は自動車専用道路において、3時間以上自動車の通行を禁止させたもの
 - (15) 自動車事故の発生の防止を図るために国土交通大臣が特に必要と認めて報告を指示したもの
3. 事故の種類の変換は次のとおりとする。

「 転 覆 」当該自動車が道路上において路面と35度以上傾斜したとき

「 転 落 」当該自動車が道路外に転落した場合で、その落差が0.5メートル以上のとき

「 路外逸脱 」当該自動車の車輪が道路(車道と歩道の区分がある場合は、車道)外に逸脱した場合で、「転落」以外のとき

「 火 災 」当該自動車又は積載物品に火災が生じたとき

「 踏 切 」当該自動車が踏切において、鉄道車両と衝突し、又は接触したとき

「 衝 突 」当該自動車が鉄道車両、トロリーバス、自動車、原動機付自転車、荷牛馬車、家屋その他の物件に衝突し、又は接触したとき

「 死 傷 」死傷者を生じたとき(「車内」に該当する場合を除く。)

「 危険物等 」自動車の積載された危険物、火薬類、高圧ガス等の危険物の全部若しくは一部が飛散し、又は漏えいしたもの又は自動車の積載されたコンテナが落下したもの

- 「車内」操縦装置又は乗降口の扉を開閉する装置の不適切な操作により、旅客(乗降する際の旅客を含む。)を死傷させたとき
- 「飲酒等」酒気帯び運転、無免許運転、大型自動車等無資格運転又は麻薬等運転を伴うもの
- 「健康起因」運転者の疾病により、事業用自動車の運転を継続することができなくなったもの
- 「救護違反」救護義務違反があったもの
- 「車両故障」自動車の装置の故障により、自動車が運行できなくなったもの、又は車輪の脱落、被牽引自動車の分離を生じたもの(故障によるものに限る。)
- 「交通障害」橋脚、架線その他の鉄道施設を損傷し、3時間以上本線において鉄道車両の運転を休止させたもの、又は高速自動車国道又は自動車専用道路において、3時間以上自動車の通行を禁止させたもの
- 「その他」前各区分に該当しないとき

4. 「重傷」とは、次のいずれかの傷害を受けたものをいう。

- (1) 脊柱の骨折
- (2) 上腕又は前腕の骨折
- (3) 大腿又は下腿の骨折
- (4) 内臓の破裂
- (5) 病院に入院することを要する障害で、医師の治療を要する期間が30日以上のもの
- (6) 14日以上病院に入院することを要する傷害

5. 「死者」とは、事故の発生後24時間以内に死亡したものをいう。

6. 「軽傷」とは、上記4及び5以外の負傷者をいう。

※ 同一の事故に複数の事業者が関係する場合、第一当事者に限らず、関係したそれぞれの事業者より報告がなされるため、自動車事故報告書の統計上、重複した件数・死傷者数が計上されることから、実際に発生した事故の件数・死傷者数とは異なることがあります。

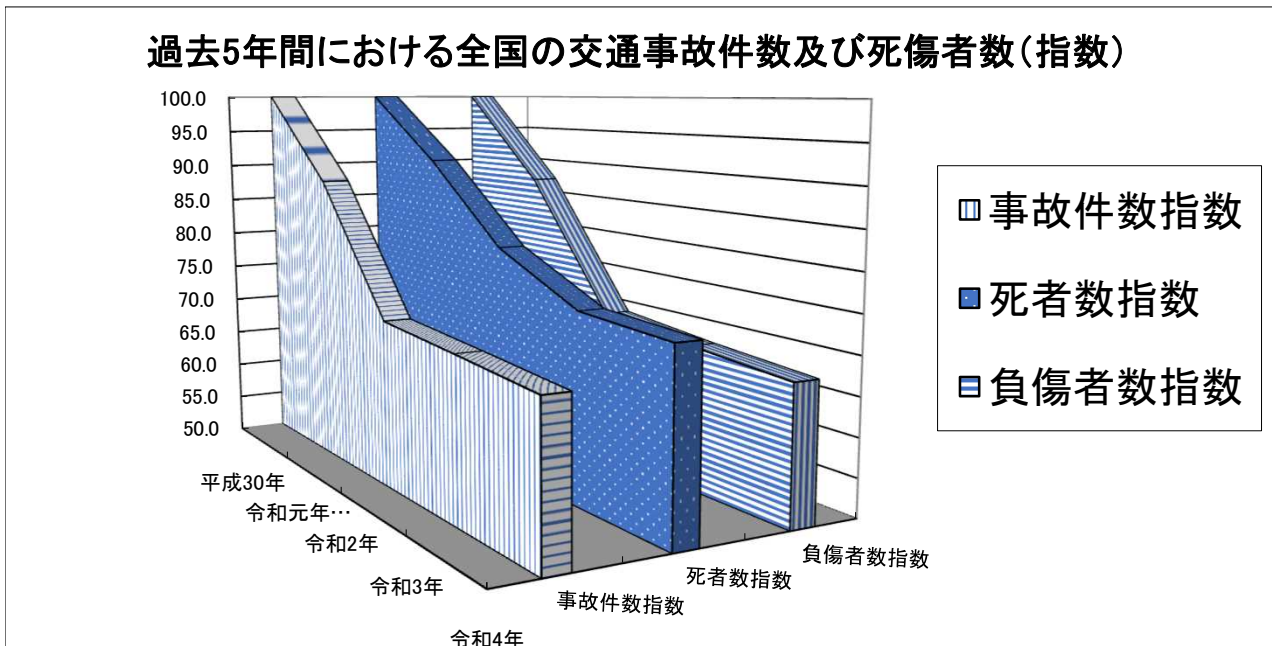
※ 事故に関係した車両の所属する営業所の所在する府県で集計しており、実際に事故が発生した地点(都道府県)の件数とは異なります。

【 I 】交通事故の概況

1. 全国の交通事故件数及び死傷者数

令和4年中に全国で発生した交通事故件数は300,839件で18年連続の減少となった。交通事故の死者数は2,610人で、対前年-26人。昭和23年から統計を取って以来、最少となった。(6年連続で戦後最少を更新)

死者数の多い都道府県は、大阪府が141人で第1位、続いて愛知県が137人で第2位、東京都が132人で第3位、近畿で大阪府の次に多い兵庫県は120人であり、全国第5位となっている。



過去5年間に於ける全国の交通事故件数及び死傷者数

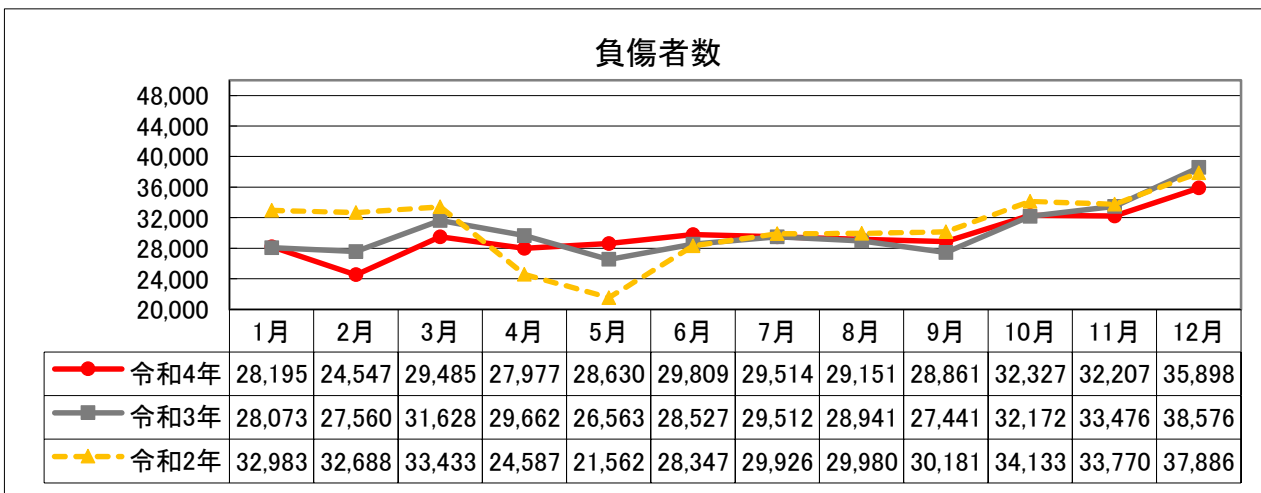
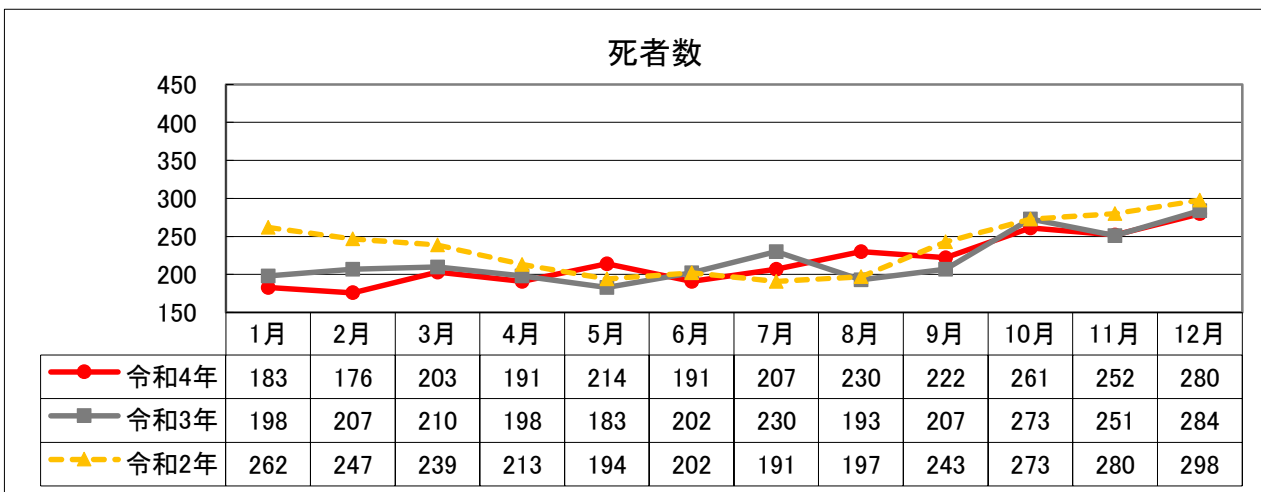
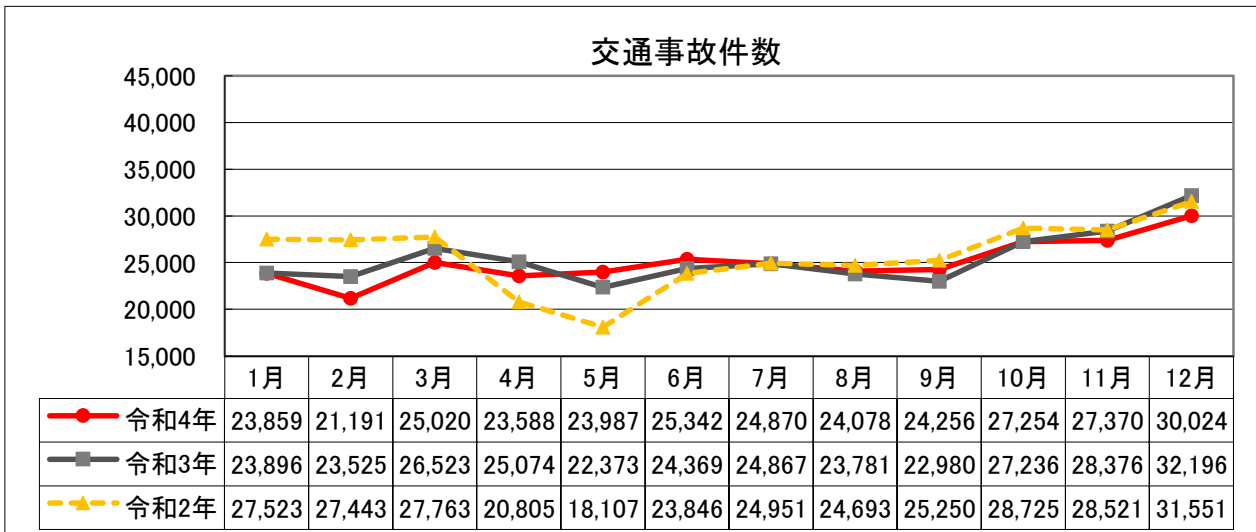
年		平成30年	令和元年(平成31年)	令和2年	令和3年	令和4年
区分	事故件数	430,601	381,237	309,178	305,196	300,839
	事故件数指数	100.0	88.5	71.8	70.9	69.9
	死者数	3,532	3,215	2,839	2,636	2,610
	死者数指数	100.0	91.0	80.4	74.6	73.9
	負傷者数	525,846	461,775	369,476	362,131	356,601
	負傷者数指数	100.0	87.8	70.3	68.9	67.8
年間	事故件数	1,176.5	1,044.5	1,044.5	847.1	824.2
	死者数	9.7	8.8	8.8	7.8	7.2
	負傷者数	1,436.7	1,265.1	1,265.1	1,012.3	977.0
一日平均	事故件数	73秒に1件	83秒に1件	102秒に1件	103秒に1件	105秒に1件
	死者数	149分に1人	163分に1人	186分に1人	199分に1人	201分に1人
	負傷者数	60秒に1人	68秒に1人	86秒に1人	87秒に1人	88秒に1人

※指数は平成30年を100とした

出典：警察庁交通局

2. 全国の交通事故件数及び死傷者数(月別)

全国で発生した交通事故件数、死者数及び負傷者数を月別に前年と比較すると、事故件数及び負傷者数は、5月から10月にかけて増加し、死者数は、5、8、9、11月に増加している。



出典：警察庁交通局

3. 飲酒別交通事故及び死亡事故件数の推移

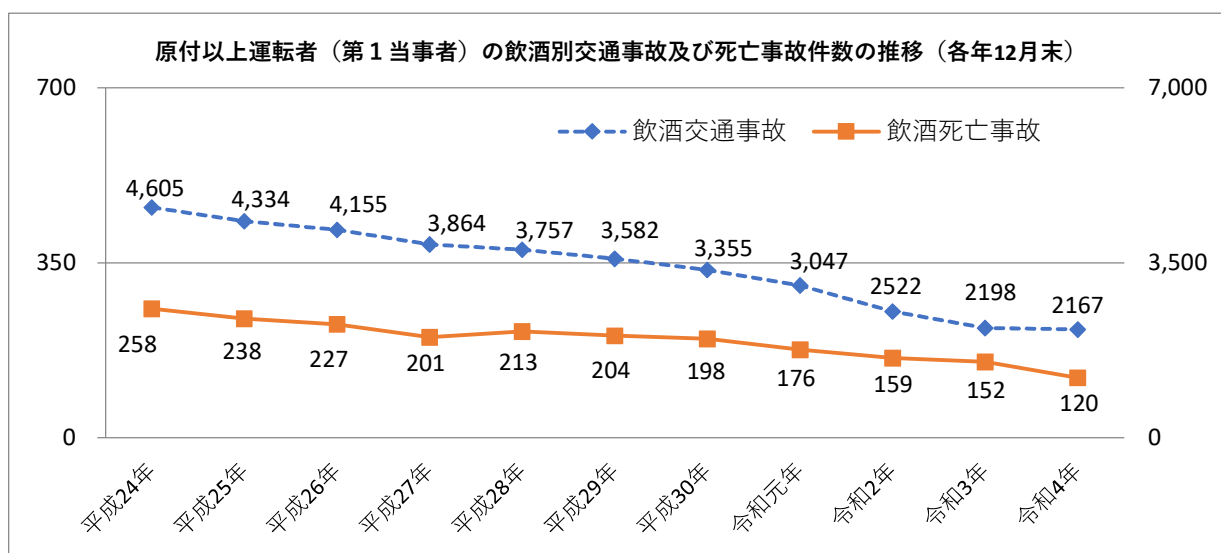
飲酒別交通事故件数及び死亡事故件数はともに前年より減少しているが、飲酒別交通事故件数の飲酒あり構成率は微増している。

○原付以上運転者(第1当事者)の飲酒別交通事故件数の推移(各年12月末)

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	
飲酒あり	酒酔い	159	164	207	174	167
	酒気帯び(0.25以上)	2,024	1,892	1,488	1,346	1,322
	酒気帯び(0.25未満)	457	407	307	279	279
	基準以下	547	440	388	300	262
	検知不能	168	144	132	99	137
	小計	3,355	3,047	2,522	2,198	2,167
	飲酒あり構成率(%)	0.8	0.9	0.9	0.773	0.778
飲酒なし	403,129	354,483	286,216	281,836	276,059	
調査不能	271	291	257	230	269	
合計	406,755	357,821	288,995	284,264	278,495	

○原付以上運転者(第1当事者)の飲酒別死亡事故件数の推移(各年12月末)

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	
飲酒あり	酒酔い	13	10	20	21	10
	酒気帯び(0.25以上)	121	107	101	91	70
	酒気帯び(0.25未満)	17	19	12	10	11
	基準以下	25	24	11	14	14
	検知不能	22	16	15	16	15
	小計	198	176	159	152	120
	飲酒あり構成率(%)	6.4	6.3	6.6	6.6	5.3
飲酒なし	2,881	2,578	2,227	2,124	2,119	
調査不能	20	26	22	13	28	
合計	3,099	2,780	2,408	2,289	2,267	

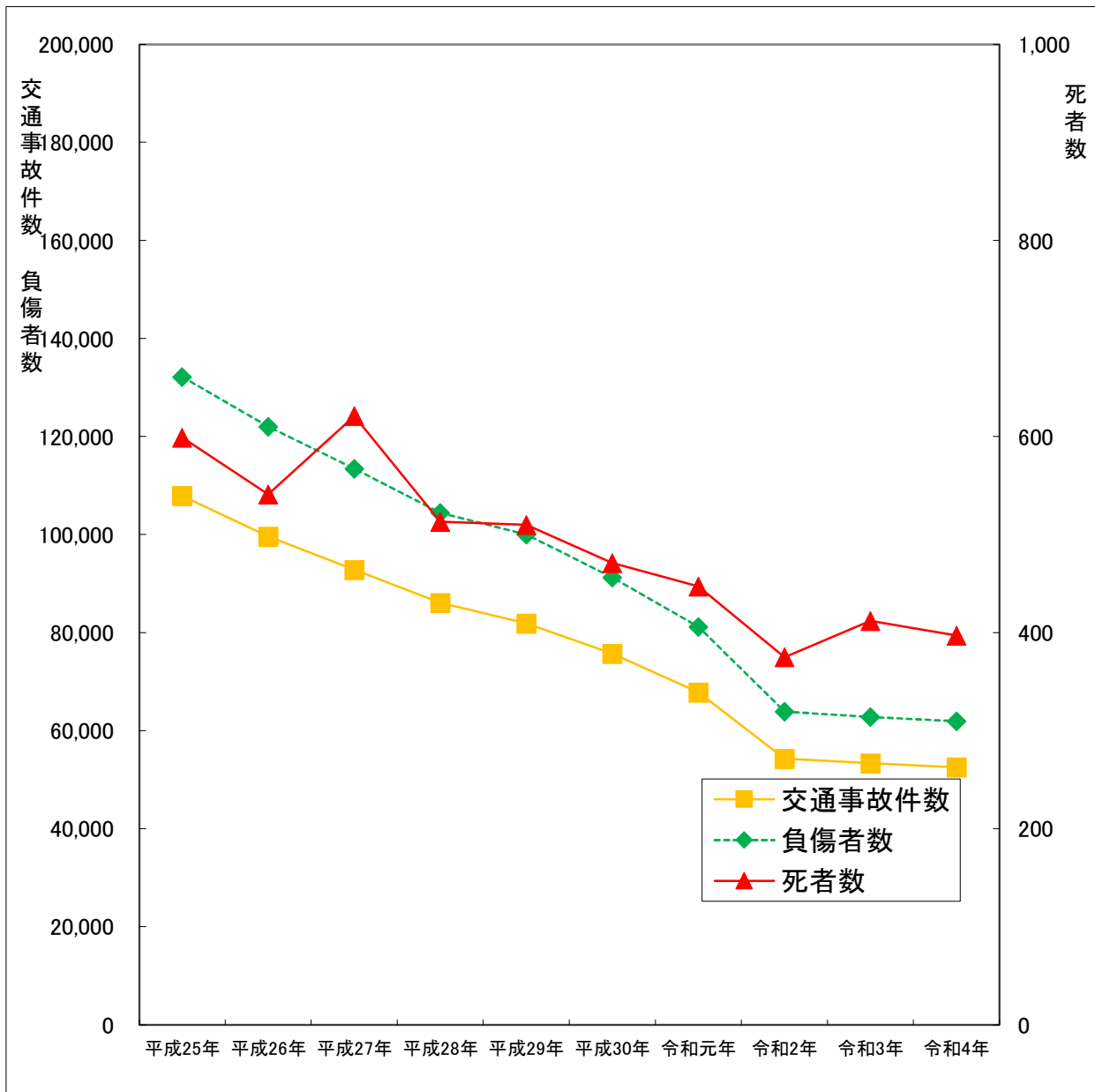


出典：警察庁交通局

4. 近畿運輸局管内の交通事故件数及び死傷者数

(1) 近畿運輸局管内の交通事故件数及び死傷者数の推移

近畿運輸局管内における過去10年間の交通事故発生状況は下図のとおりで、交通事故件数、負傷者数及び死者数のいずれにおいても前年より減少している。

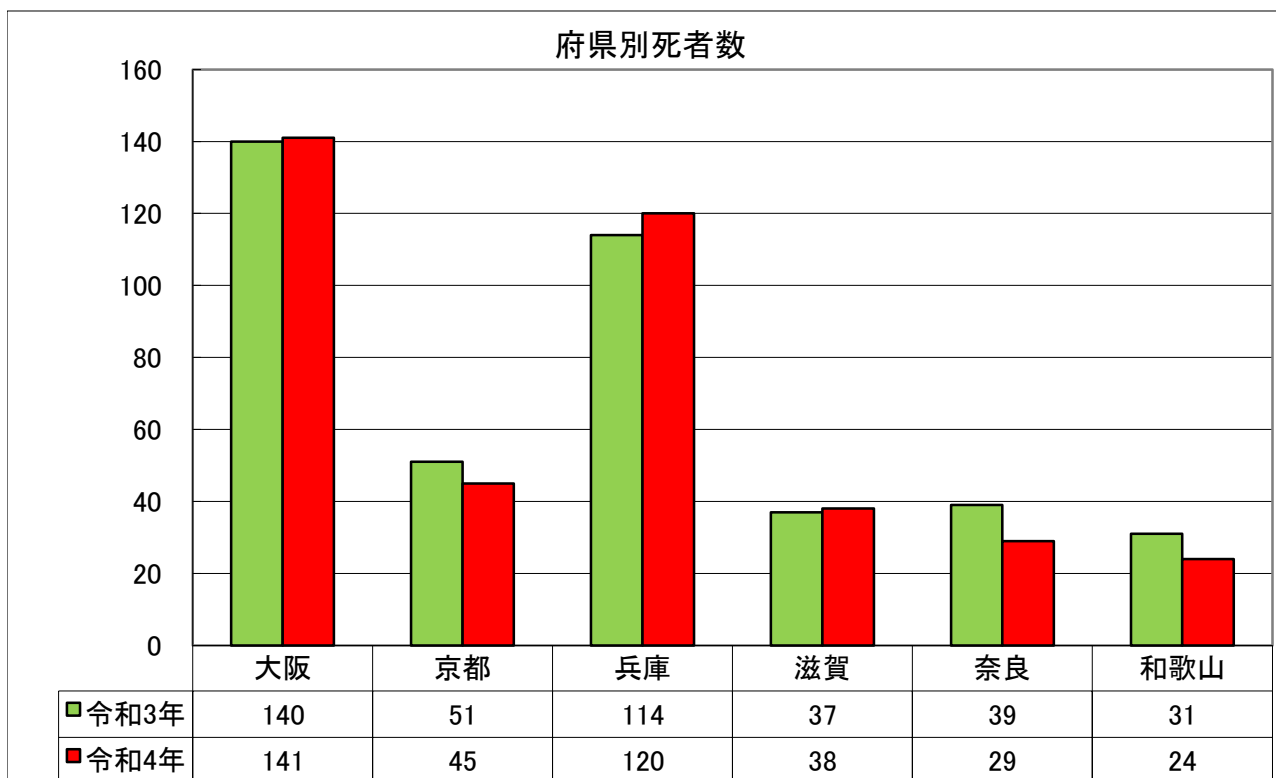
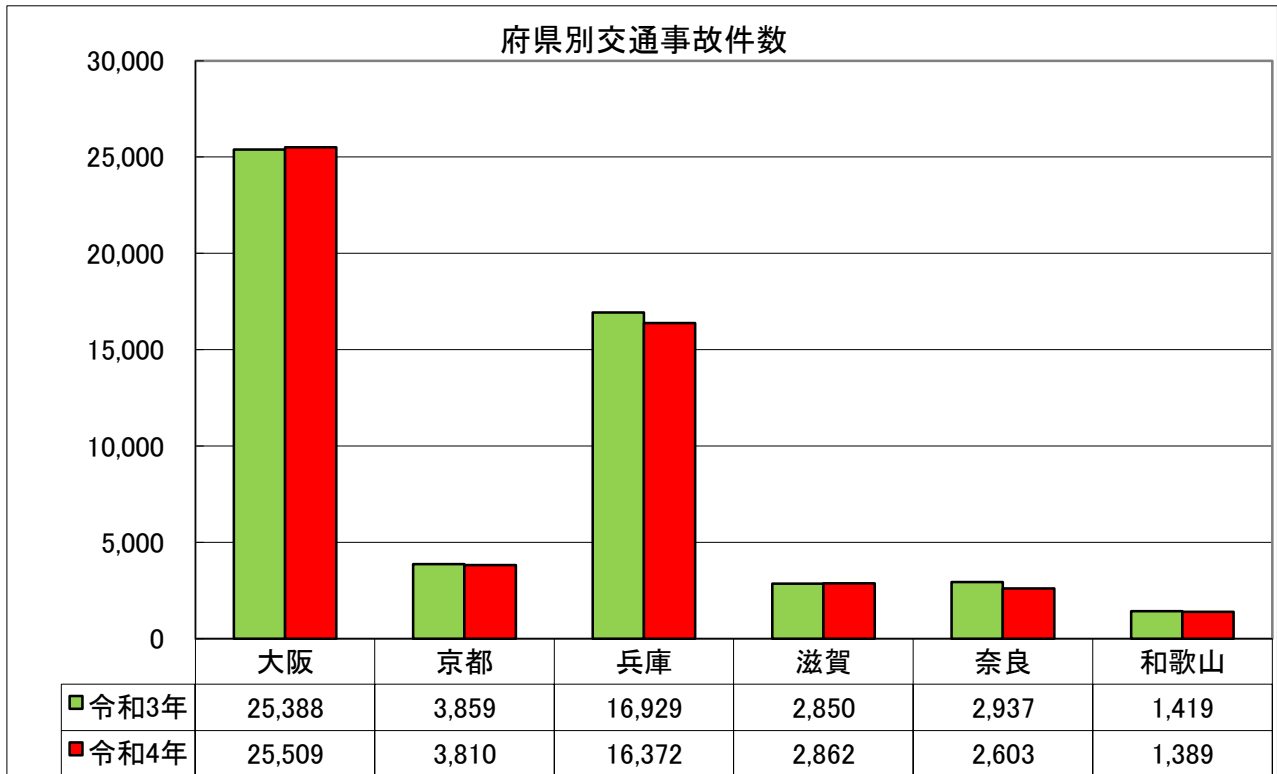


	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
交通事故件数	107,895	99,613	92,842	86,062	81,860	75,689	67,827	54,281	53,382	52,545
負傷者数	132,176	122,018	113,455	104,448	100,046	91,271	81,181	63,923	62,784	61,938
死者数	599	541	621	513	510	471	447	375	412	397

出典：警察庁交通局

(2) 近畿運輸局管内の各府県別交通事故件数及び死者数

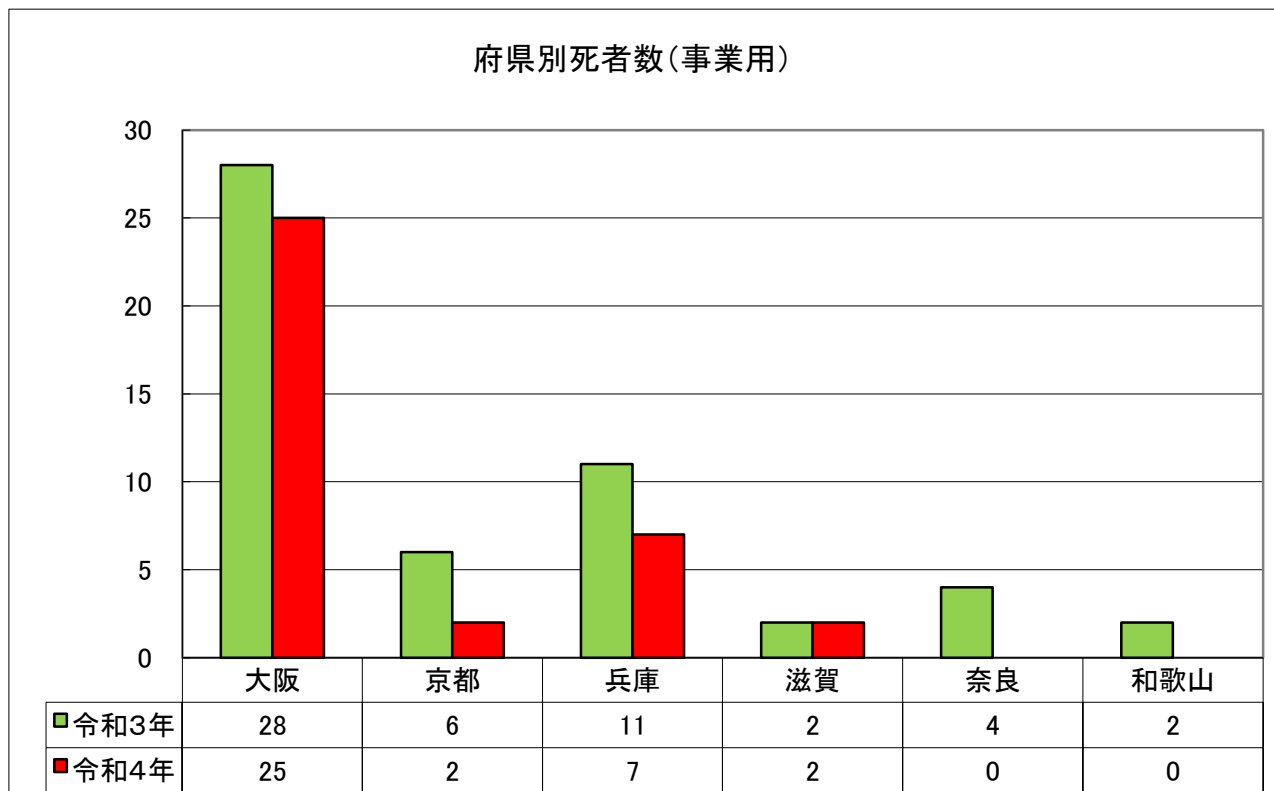
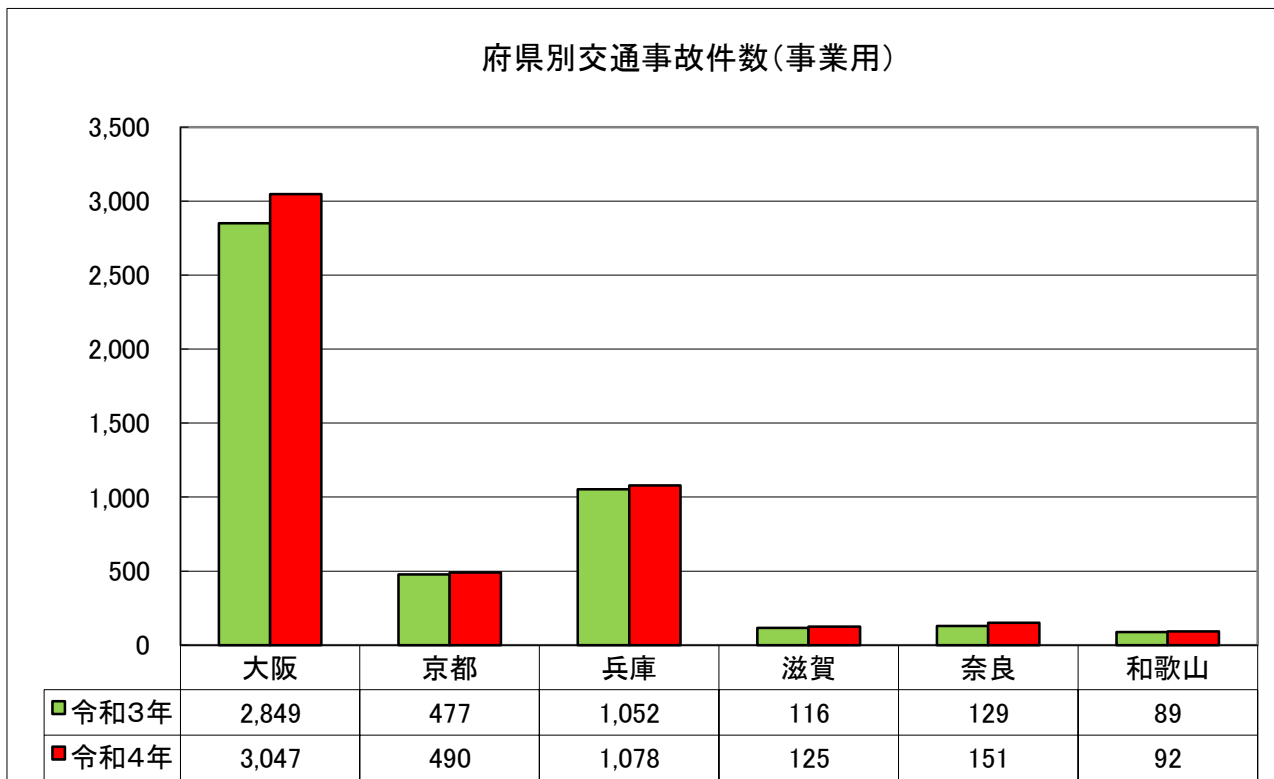
近畿運輸局管内で発生した交通事故件数は、奈良県については減少しているがその他の府県においてはほぼ横ばいである。死者数は大阪府、兵庫県及び滋賀県で増加している。中でも兵庫県は、交通事故件数は減少しているものの死者数は増加している。



出典：警察庁交通局

(3) 事業用自動車の府県別の交通事故件数及び死者数 (※第一当事者となった事故)

近畿運輸局管内の事業用自動車引き起こした交通事故について、交通事故件数は全ての府県において増加しているが、死者数においては滋賀県以外は減少しており、また管内の死者数の合算値も減少している。



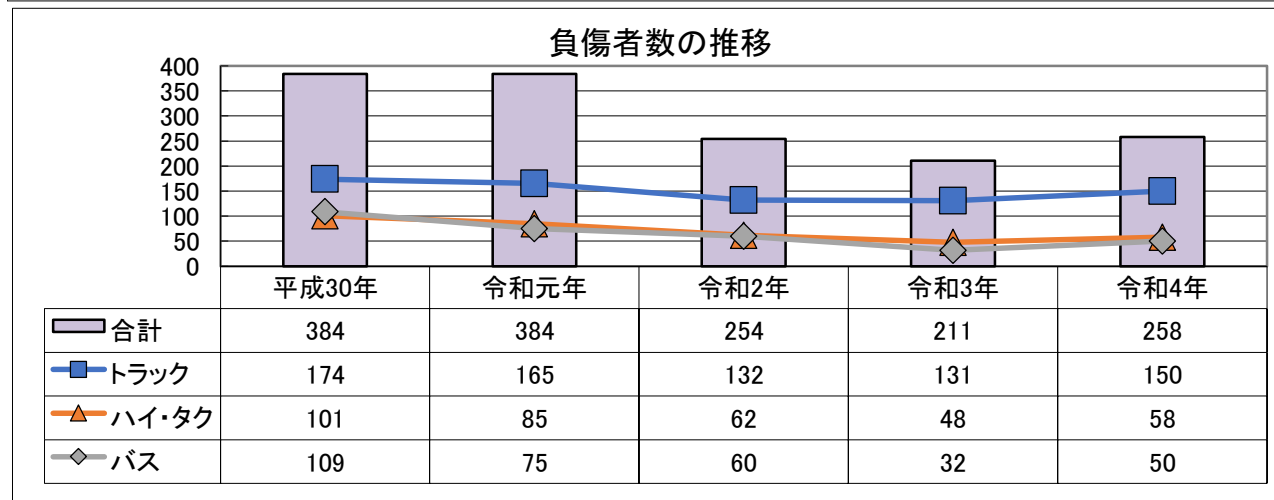
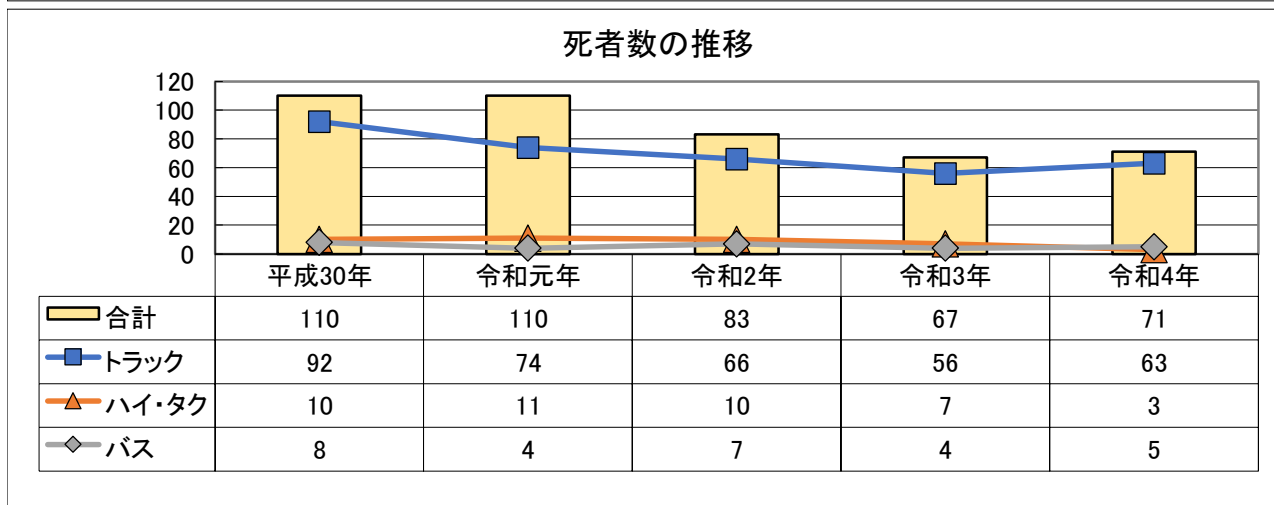
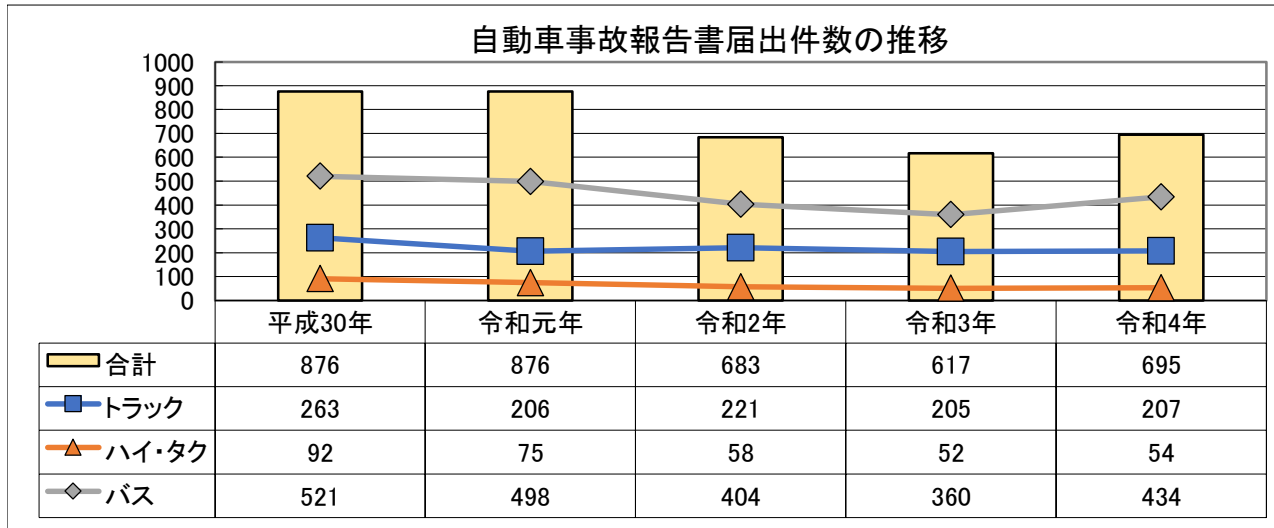
出典：(公財) 交通事故総合分析センター

【Ⅱ】近畿運輸局管内の事業用自動車の事故概況

1. 自動車事故報告書届出件数の推移

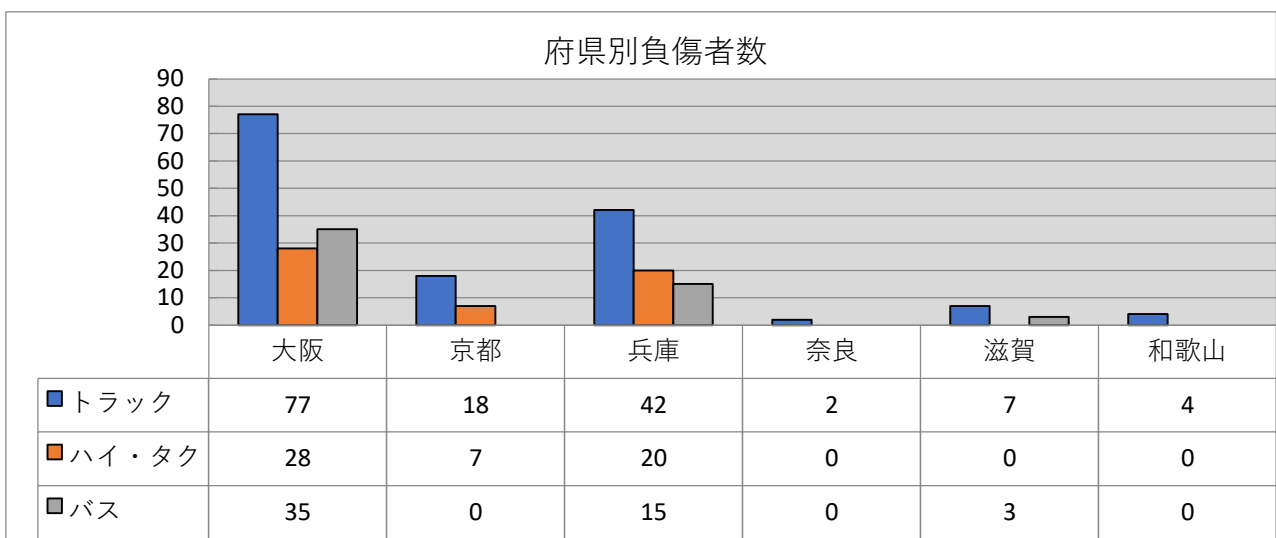
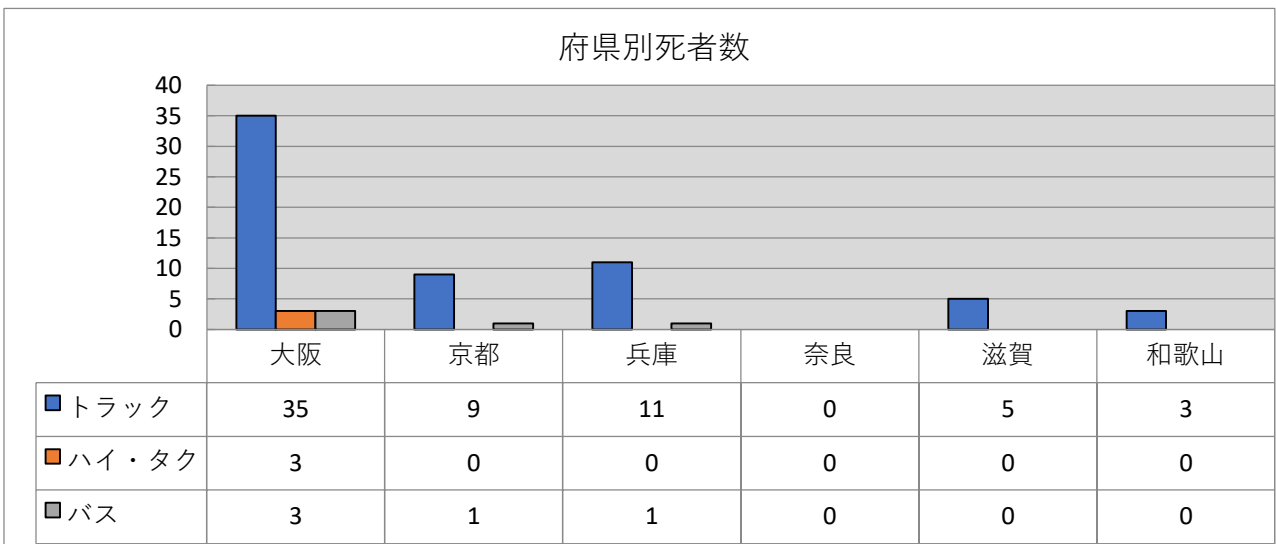
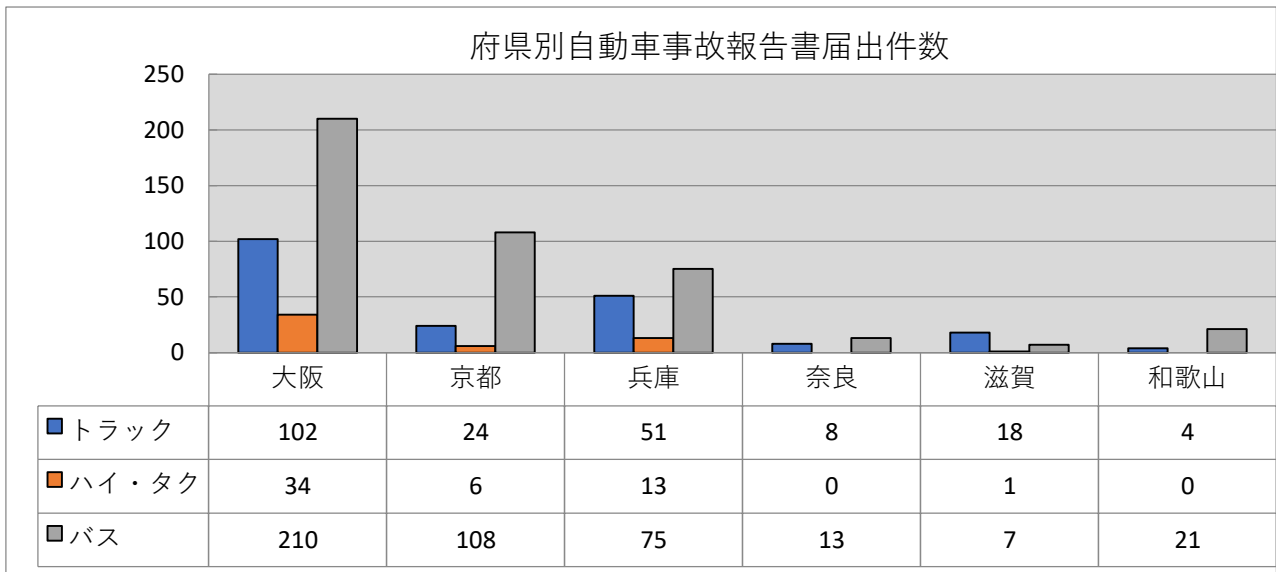
自動車事故報告規則(本誌P1参照)に基づき、近畿運輸局管内の事業者から報告された令和4年中の届出件数、届出された死者数・負傷者数は前年に比べ増加している。

(注:実際に発生した事故件数・死傷者数とは異なる場合があります。(本誌P2※参照))



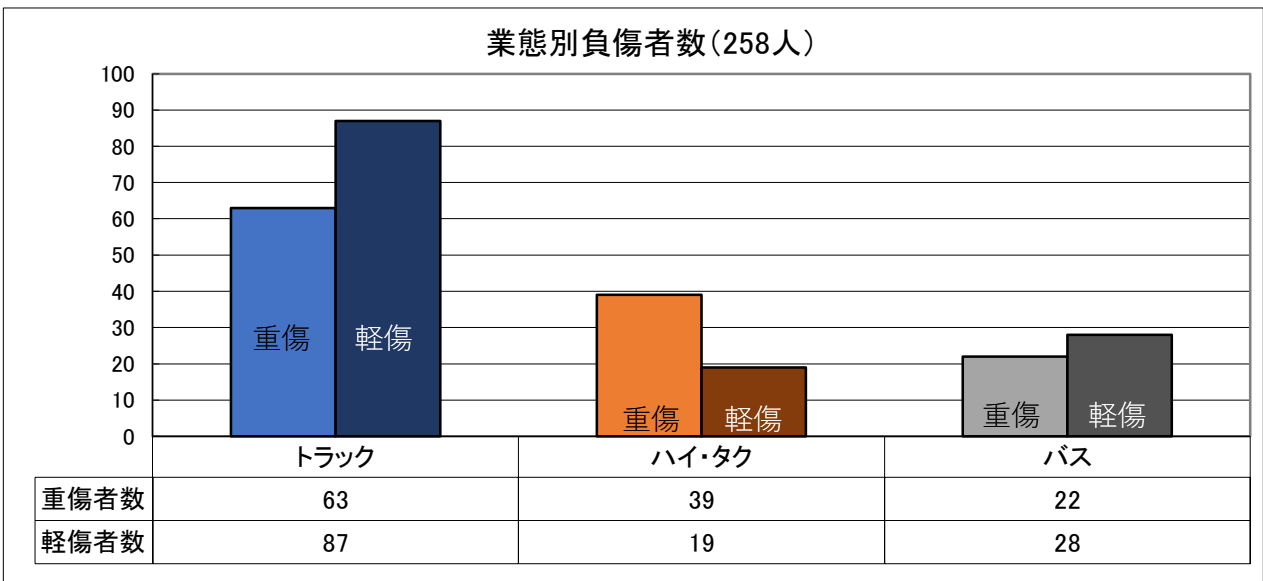
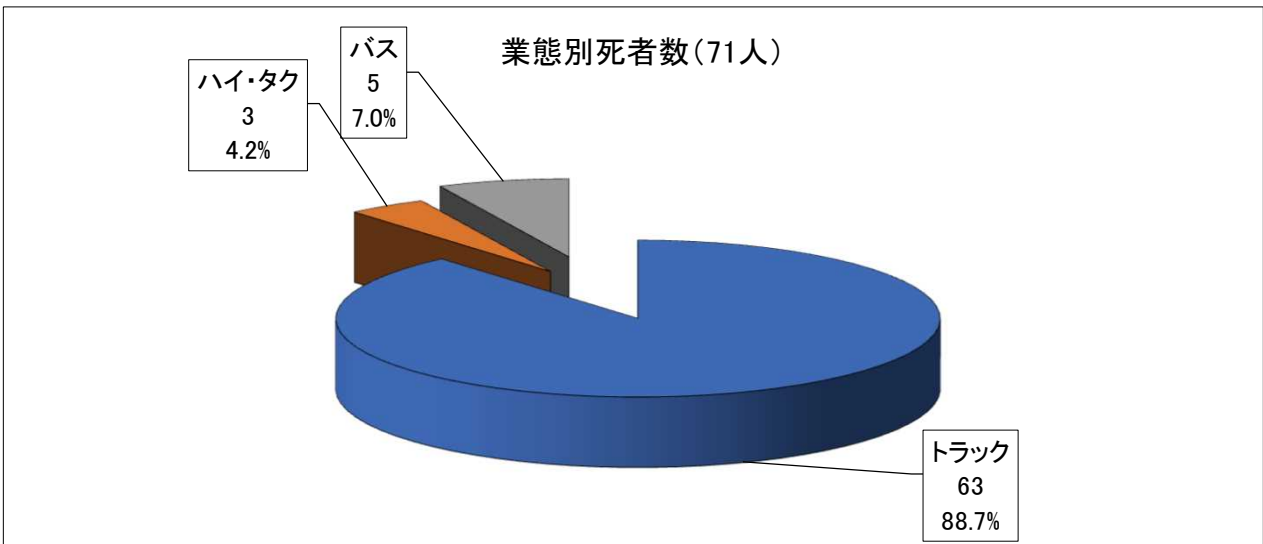
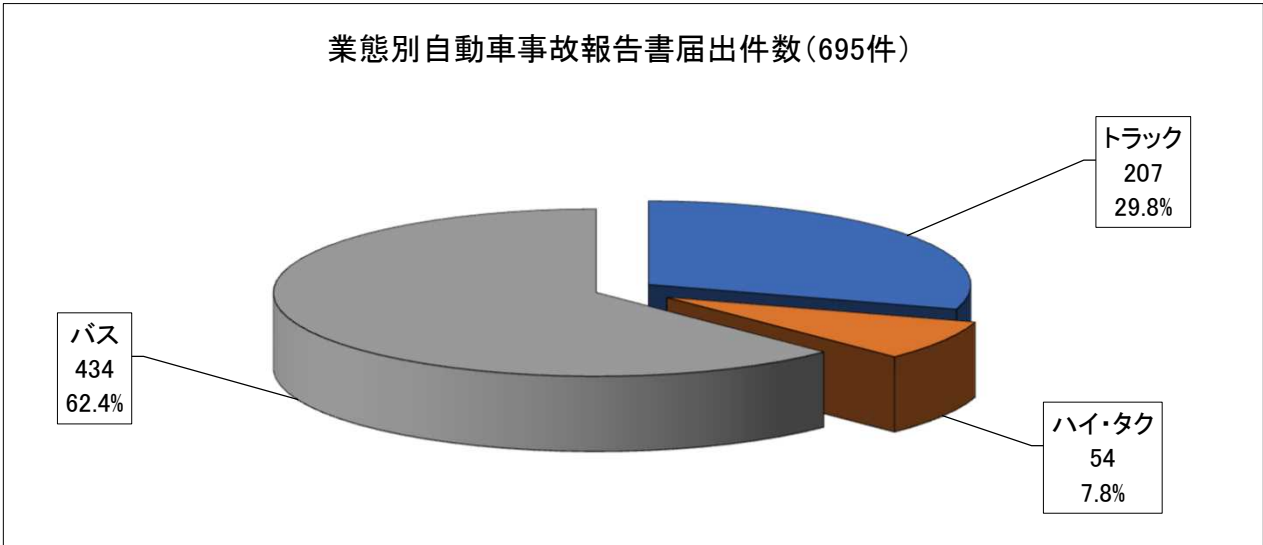
2. 各府県別自動車事故報告書届出件数

府県別の自動車事故報告書届出件数及び届出された死者数・負傷者数は、大阪府が最も多くなっている。



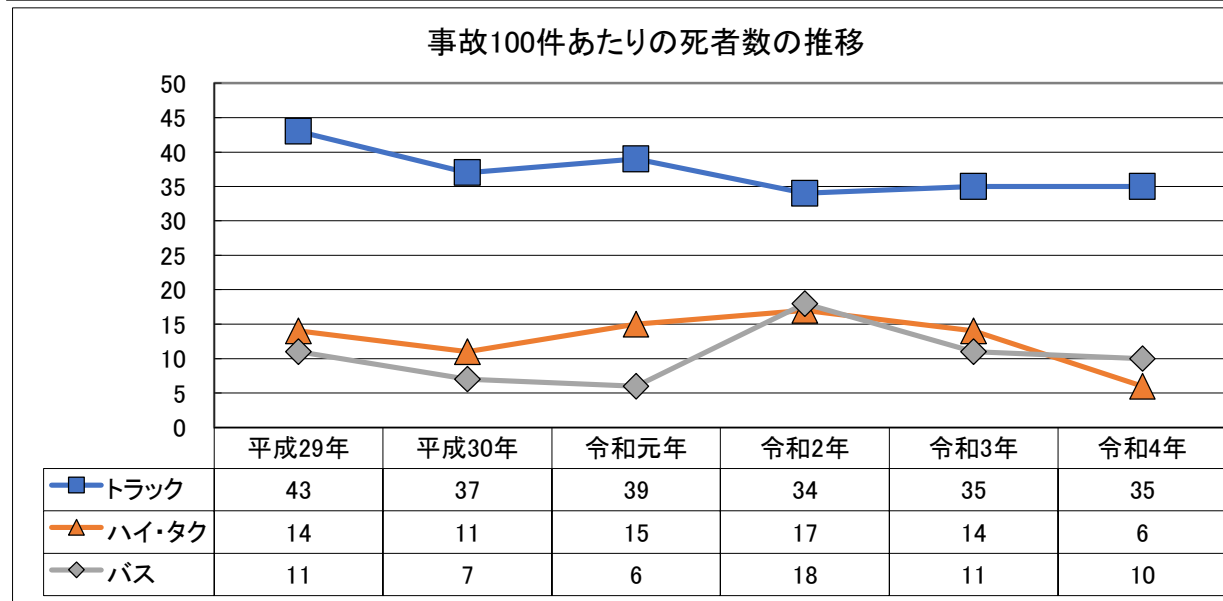
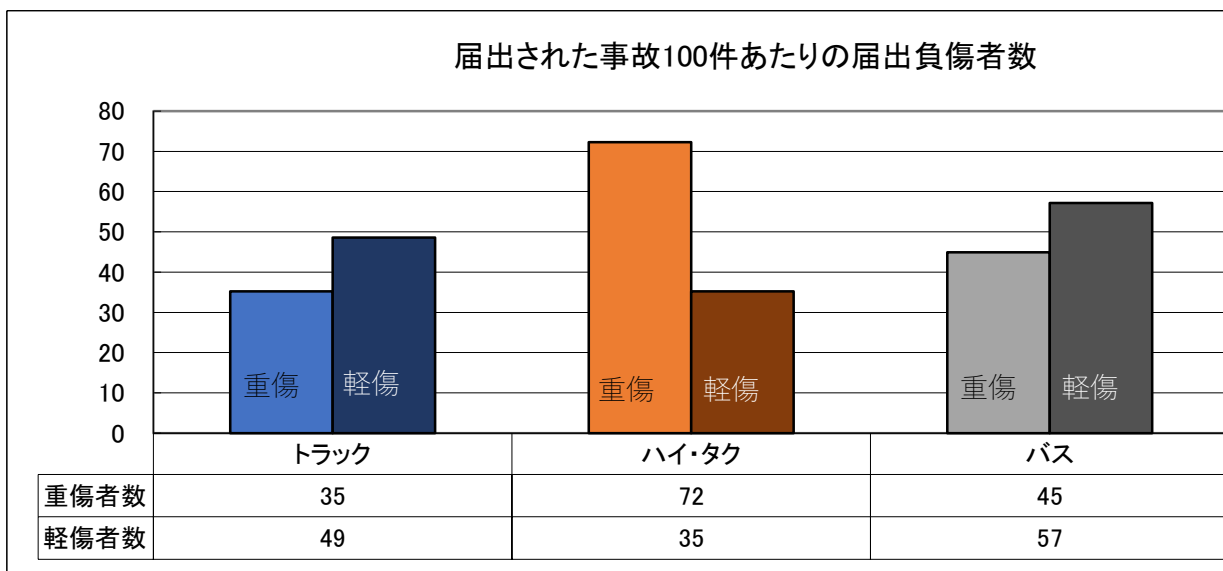
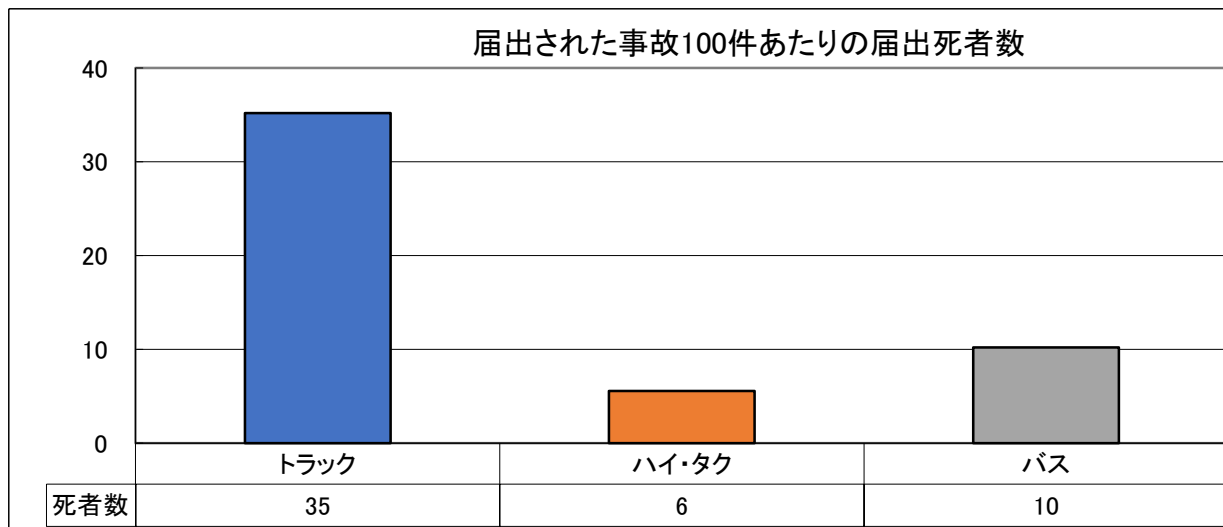
3. 業態別自動車事故報告書届出件数

業態別にみると自動車事故報告書届出件数はバスが最も多く、届出された死者数・負傷者数はともにトラックが最も多くなっている。



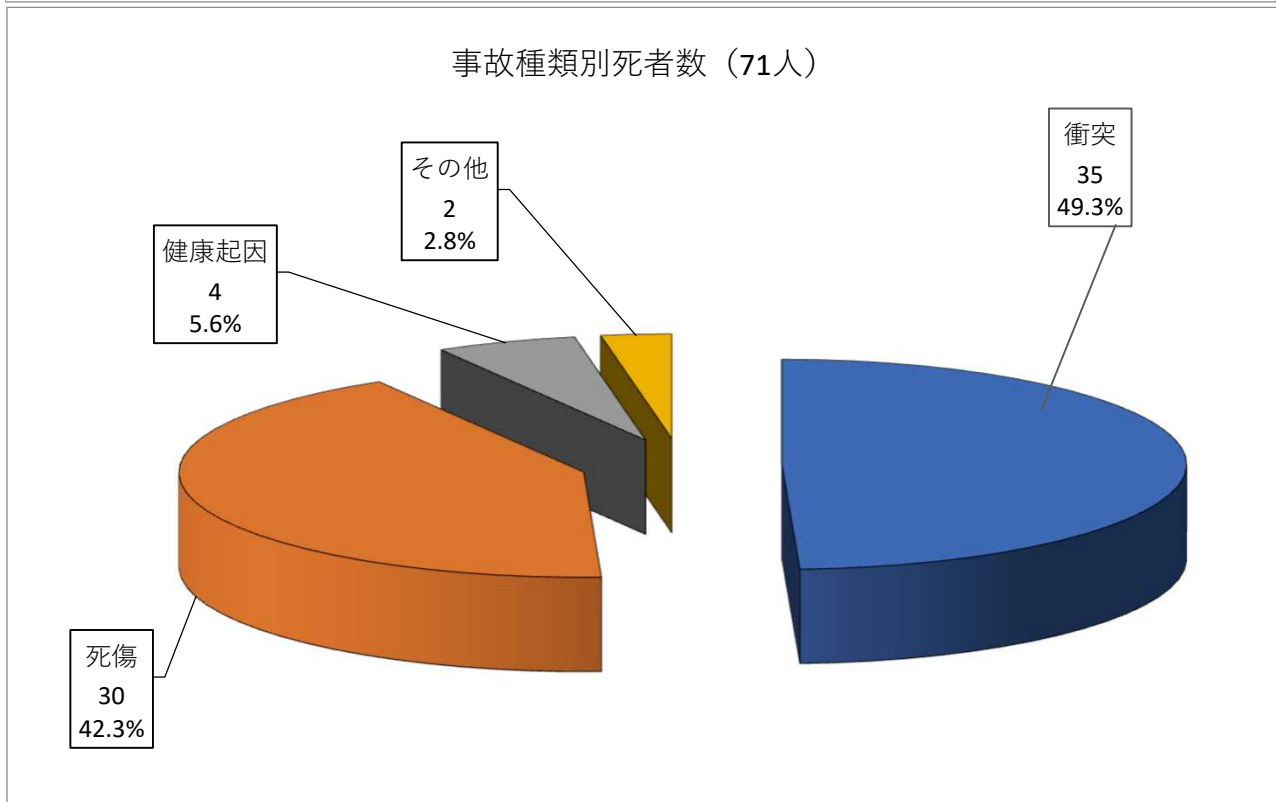
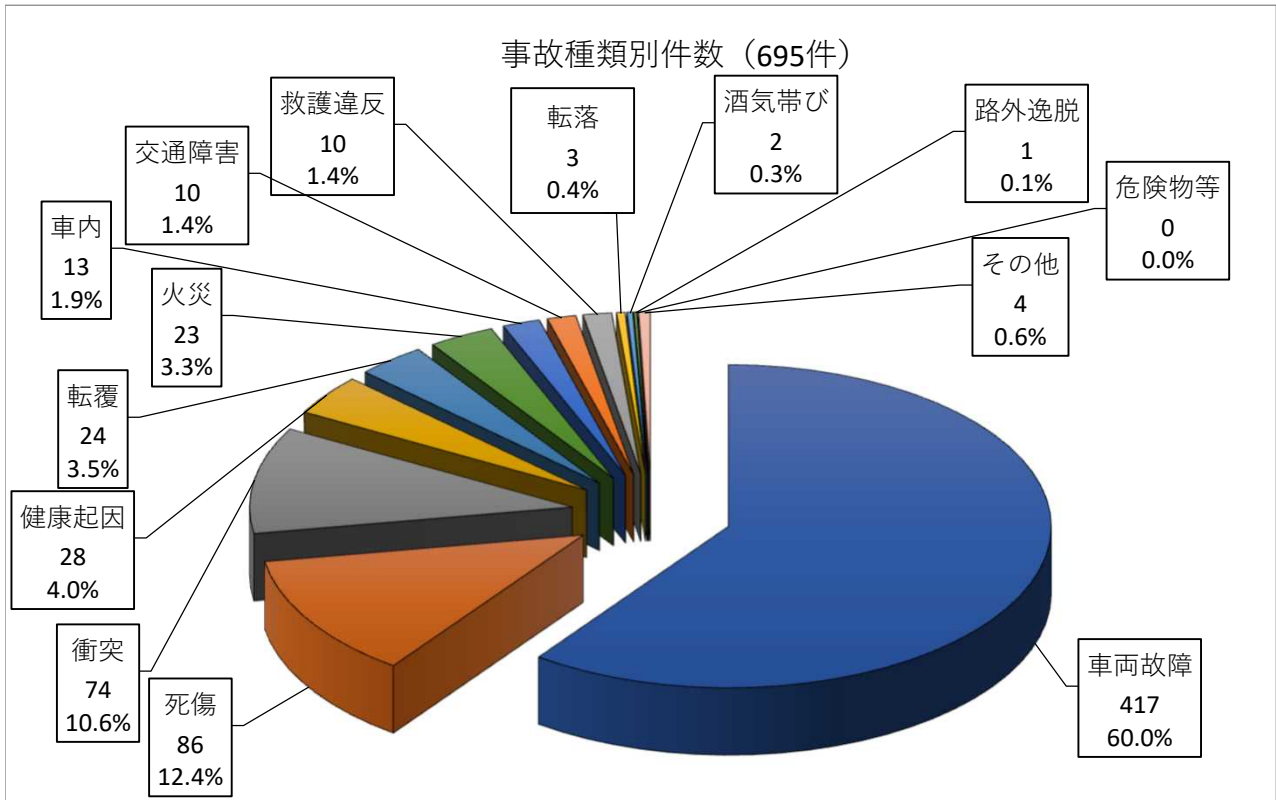
4. 届出された事故100件あたりの届出死傷者数(車両故障を除く)

届出された事故100件あたりの届出死者数はトラックが最も多く、届出負傷者数はハイ・タクが最も多くなっている。



5. 届出された事故の種類別届出件数及び届出死者数

届出された事故を種類別届出件数で見ると、車両故障、死傷及び衝突で大半を占めており、届出死者数で見ると、衝突及び死傷で大半を占めている。



6. 届出された事故の種類別届出件数の推移

(1) 届出された事故の種類別届出件数の推移(全体)

種類別届出件数の全体をみると、車両故障、死傷、衝突の順となっており、転覆、死傷及び健康起因が前年に比べて増加している。中でも転覆は大幅に増加している。

種類	年	平成 30 年	令和 元年	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年
転	覆	73	20	14	10	24
転	落	10	13	13	5	3
路	外 逸 脱	0	0	0	1	1
火	災	26	19	24	30	23
踏	切	0	1	1	0	0
衝	突	120	105	87	79	74
車	内	23	12	12	19	13
死	傷	111	88	96	68	86
健	康 起 因	62	49	20	20	28
危	険 物 等	2	2	0	2	0
車	両 故 障	424	453	395	368	417
そ	の 他	25	17	21	15	26
合	計	876	779	683	617	695

(2) 届出された事故の種類別届出件数の推移(バス)

バスは車両故障が全体の約90%を占めており、続いて健康起因、車内、死傷、衝突の順となっている。また、前年に比べて死傷及び健康起因が増加している。

種類	年	平成 30 年	令和 元年	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年
転	覆	1	0	0	0	0
転	落	0	0	0	1	0
路	外 逸 脱	0	0	0	0	1
火	災	5	2	1	3	3
踏	切	0	0	0	0	0
衝	突	13	9	6	6	6
車	内	22	11	10	14	12
死	傷	14	9	11	6	11
健	康 起 因	54	31	9	7	15
危	険 物 等	0	0	0	0	0
車	両 故 障	412	435	366	323	385
そ	の 他	0	1	1	0	1
合	計	521	498	404	360	434

(3)届出された事故の種類別届出件数の推移(ハイ・タク)

ハイ・タクは死傷及び衝突で多くを占めており、前年に比べて転覆、死傷及び健康起因が増加している。

種類	年	平成 30 年	令和 元年	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年
転	覆	4	2	0	0	2
転	落	3	2	3	0	0
路 外 逸 脱		0	0	0	0	0
火	災	2	1	0	2	1
踏	切	0	1	1	0	0
衝	突	30	29	14	17	15
車	内	1	1	2	5	1
死	傷	39	30	32	19	24
健 康 起 因		6	5	3	4	5
危 険 物 等		0	0	0	0	0
車 両 故 障		0	0	0	1	0
そ の 他		7	4	3	4	6
合	計	92	75	58	52	54

(4)届出された事故の種類別届出件数の推移(トラック)

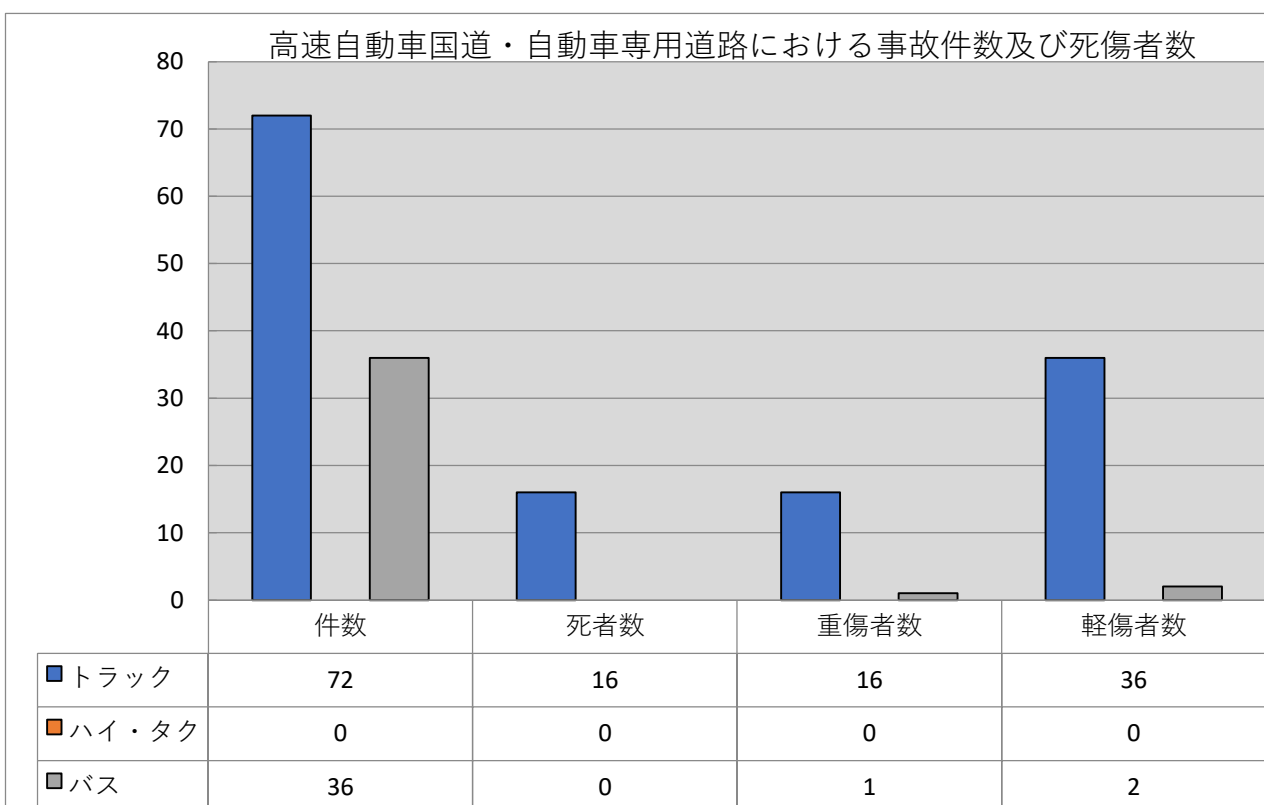
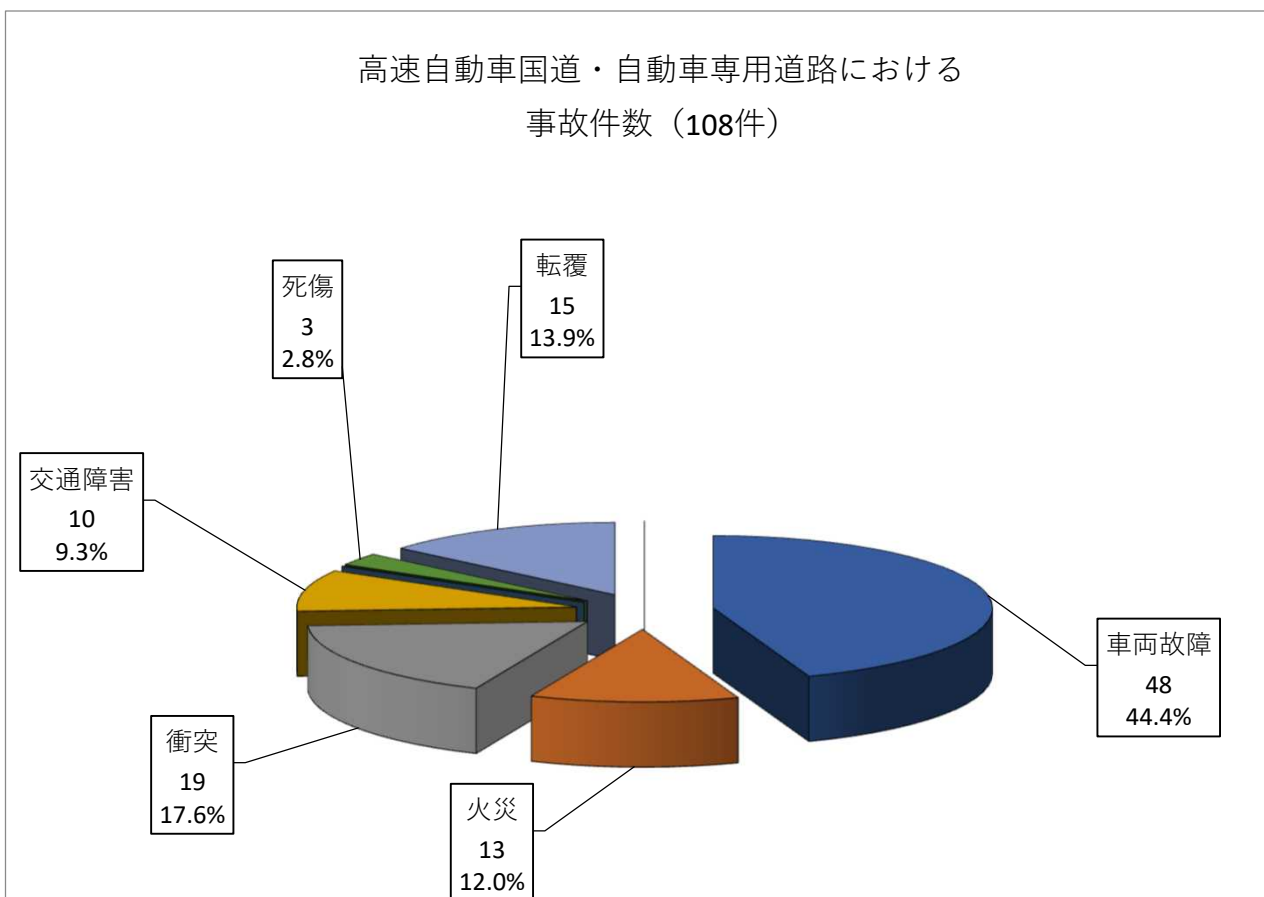
トラックは衝突、死傷、車両故障で多くを占めており、前年に比べて転覆が増加している。

種類	年	平成 30 年	令和 元年	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年
転	覆	15	68	18	14	22
転	落	6	7	11	10	3
路 外 逸 脱		0	0	0	0	0
火	災	23	19	16	23	19
踏	切	0	0	0	0	0
衝	突	75	77	67	67	53
車	内	0	0	0	0	0
死	傷	42	58	49	53	51
健 康 起 因		11	2	13	8	8
危 険 物 等		0	2	2	0	0
車 両 故 障		13	12	18	29	32
そ の 他		18	18	12	17	19
合	計	203	263	206	221	207

(5)届出された事故の種類別届出件数と届出死傷者数の推移

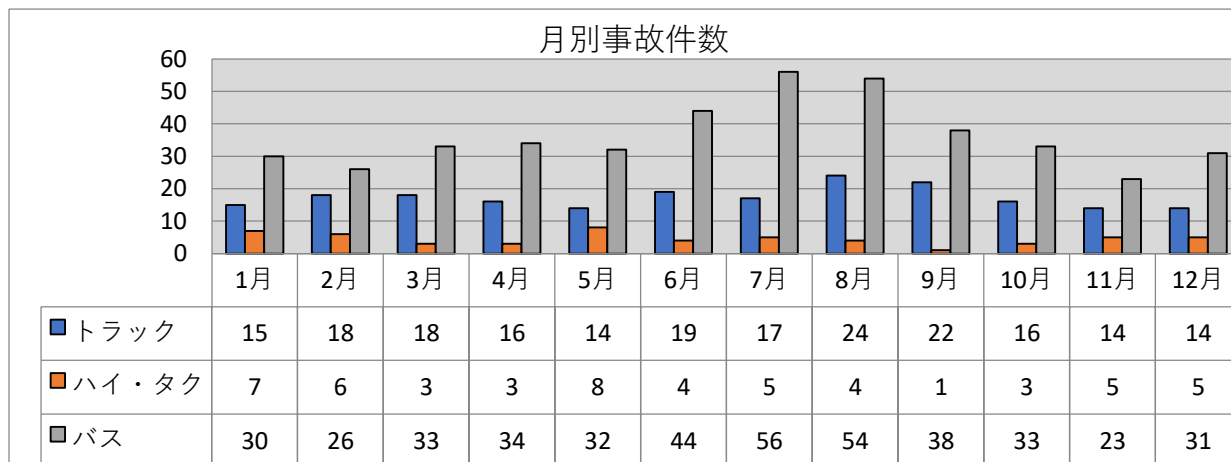
年別・項目		種類												合計
		転覆	転落	路外逸脱	火災	踏切	衝突	車内	死傷	健康起因	危険物等	車両故障	その他	
平成30年	件数	73	10	0	26	0	120	23	111	62	2	424	25	876
	死者数	1	0	0	1	0	58	0	46	3	0	0	1	110
	負傷者数	28	6	0	4	0	202	47	71	8	3	1	14	384
令和元年	件数	20	13	0	19	1	105	12	88	49	2	453	17	779
	死者数	1	0	0	0	0	47	0	33	8	0	0	0	89
	負傷者数	12	12	0	0	2	187	24	71	6	0	0	11	325
令和2年	件数	14	13	0	24	1	87	12	96	20	0	395	21	683
	死者数	0	0	0	0	0	33	0	41	7	0	0	2	83
	負傷者数	13	7	0	0	0	122	25	65	9	0	0	13	254
令和3年	件数	10	5	1	30	0	79	19	68	20	2	368	15	617
	死者数	0	1	1	0	0	37	0	23	4	0	0	1	67
	負傷者数	7	2	0	0	0	107	29	48	7	1	0	10	211
令和4年	件数	24	3	1	23	0	74	13	86	28	0	417	26	695
	死者数	1	0	0	0	0	35	0	30	4	0	0	1	71
	負傷者数	18	2	0	3	0	130	14	57	7	0	3	24	258

7. 高速自動車国道・自動車専用道路における事故届出件数及び届出死傷者数
 高速道等の事故件数は、トラックが多くなっている。

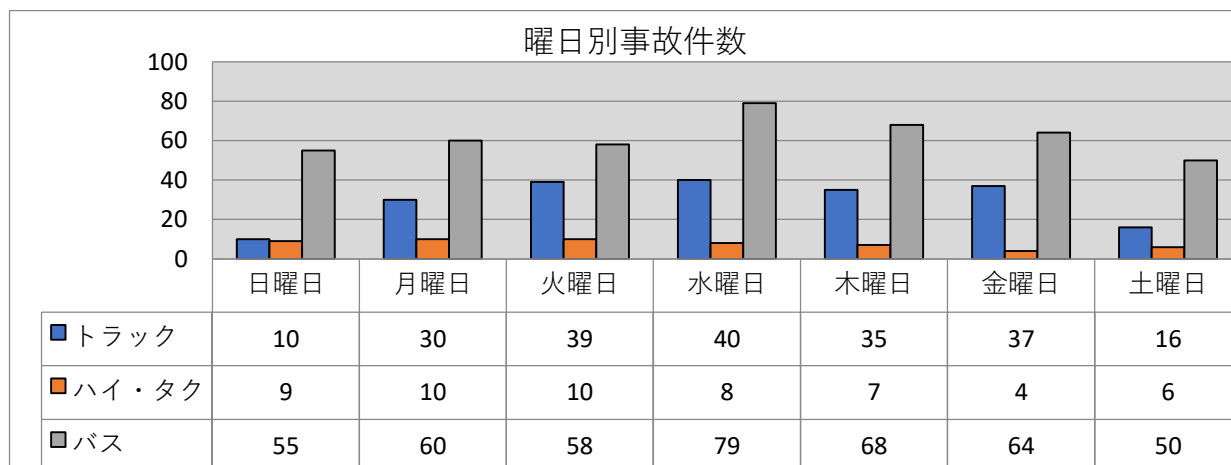


8. 月別・曜日別・時間帯別事故届出件数

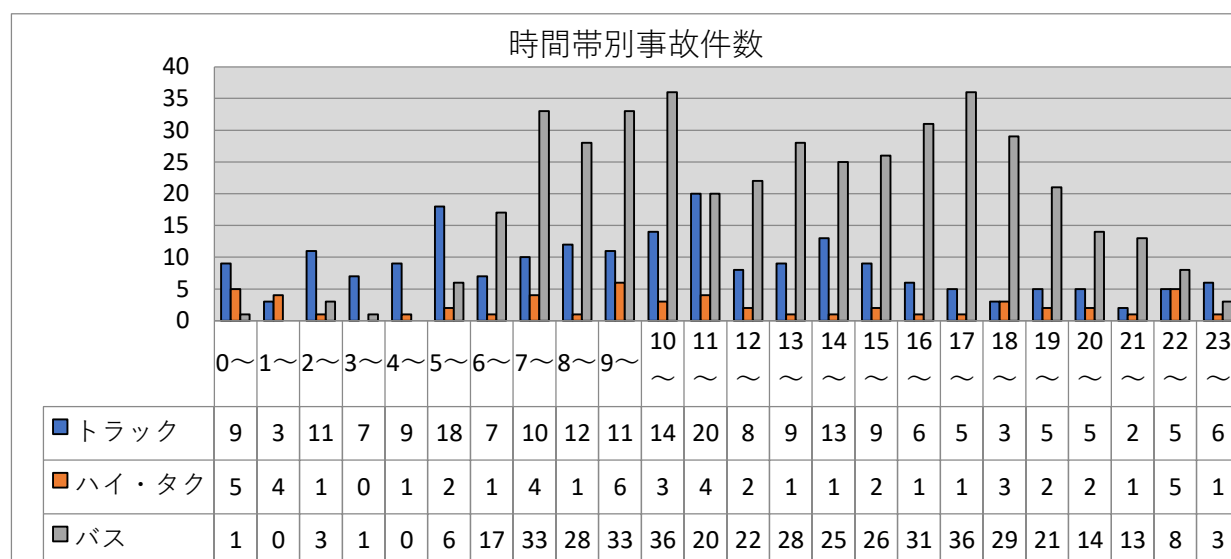
月別の事故届出件数では、バスは7月、ハイ・タクは5月、トラックは8月に最も多くなっている。



曜日別の事故届出件数では、トラック及びバスは水曜日、ハイ・タクは月曜日及び火曜日が最も多くなっている。



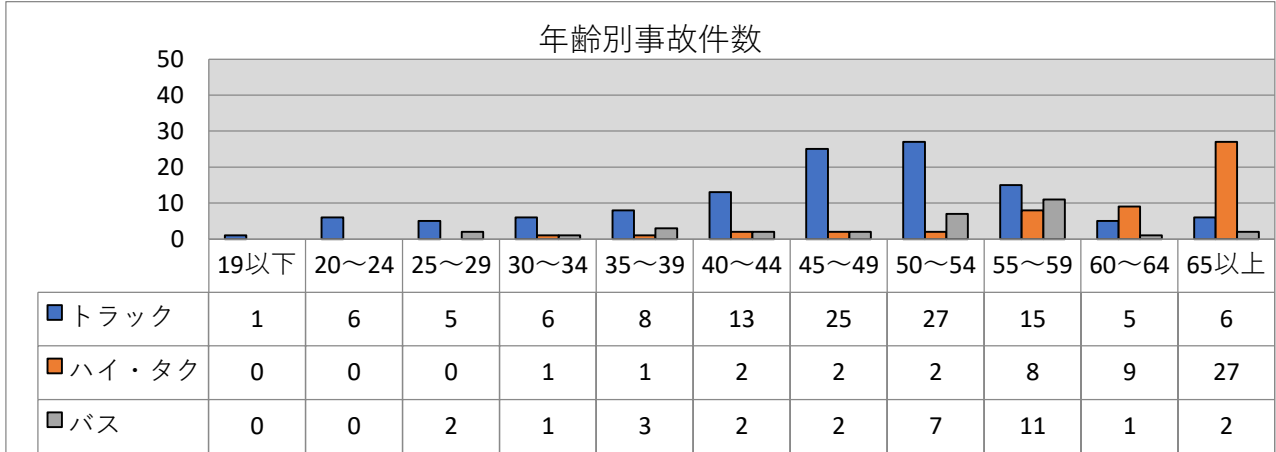
時間帯別の事故届出件数では、トラックは11時台、バスは10時台及び17時台が最も多くなっている。



9. 運転者の状態別事故届出件数(乗務員に起因する事故)

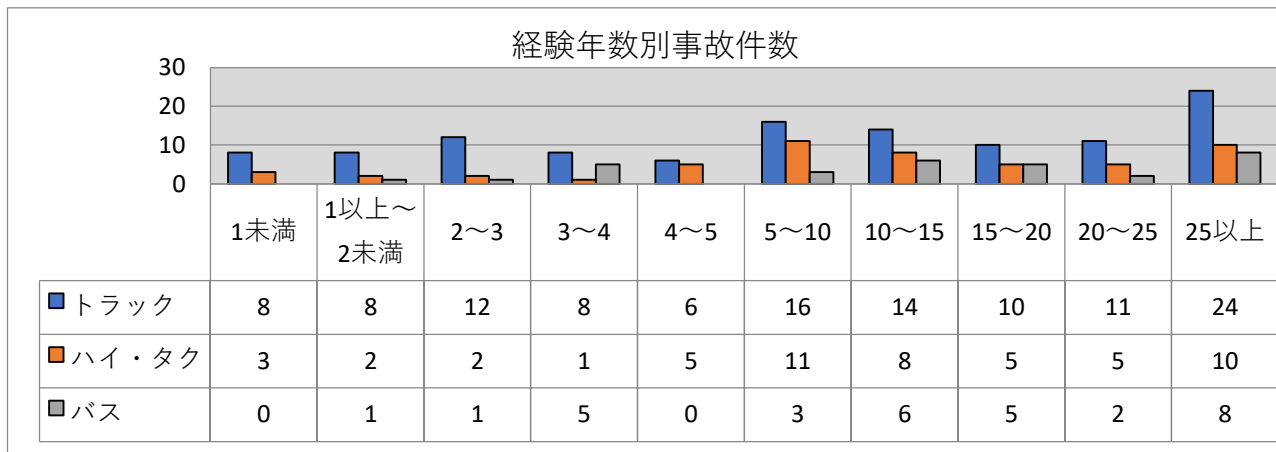
(1) 年齢別事故届出件数

トラックは50～54歳、ハイ・タクは65歳以上、バスは55～59歳が最も多くなっている。



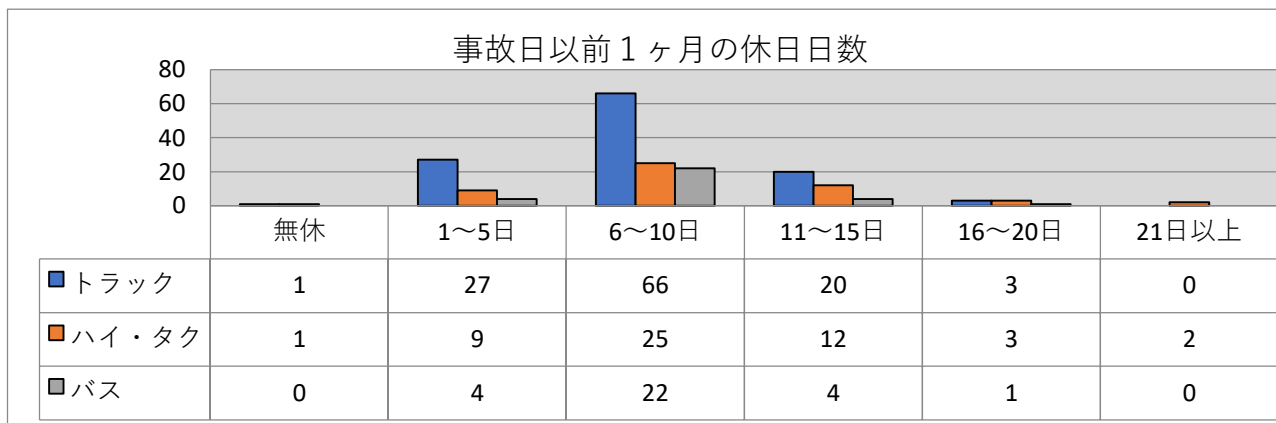
(2) 経験年数別事故届出件数

トラック及びバスは25年以上、ハイ・タクは5年～10年未満が最も多くなっている。



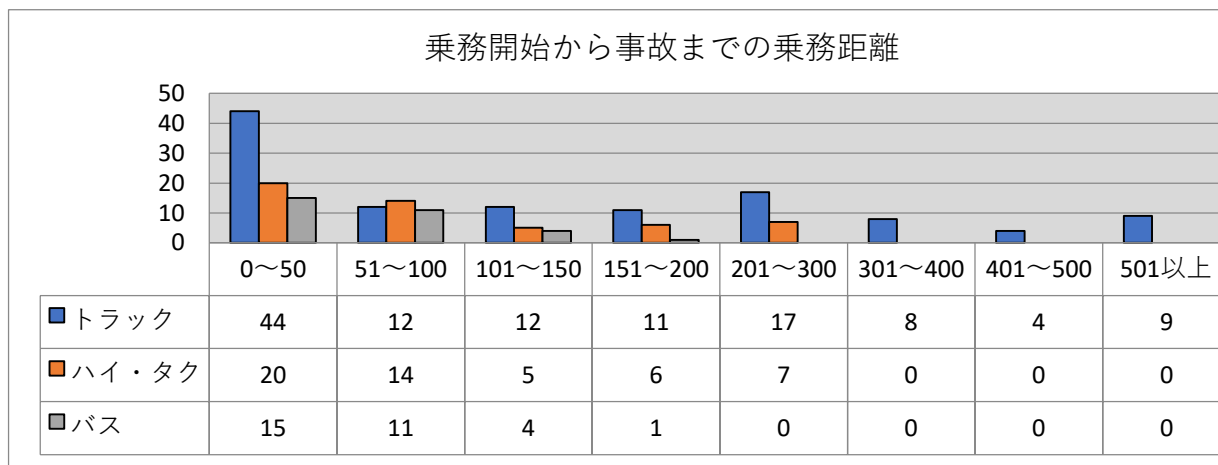
(3) 事故日以前1ヶ月の休日届出日数

全ての業態で6～10日の休日の運転者が最も多くなっている。



(4) 乗務開始から事故までの届出乗務距離

全ての業態で50kmまでの事故が最も多い。



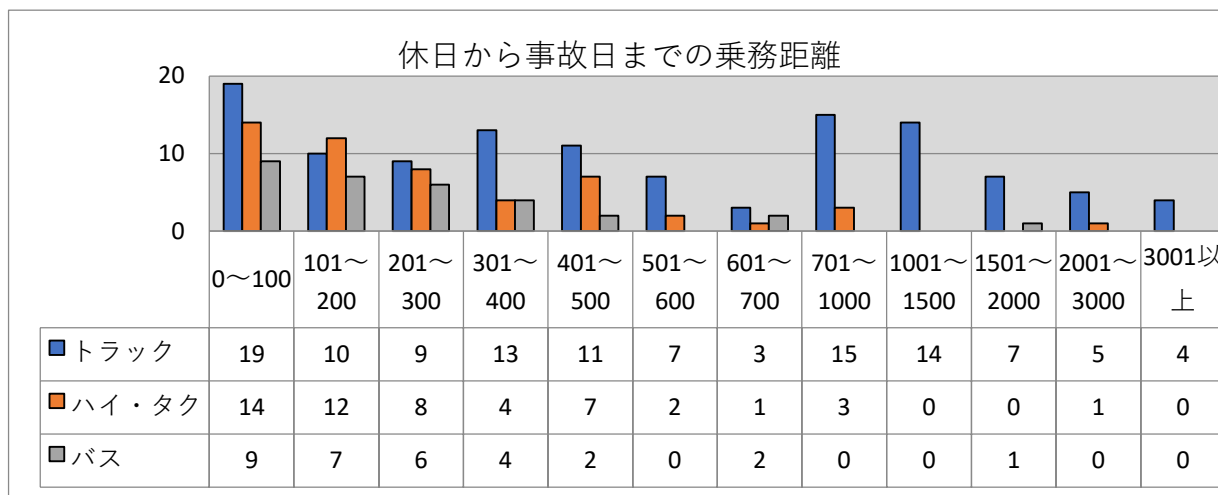
(5) 休日から事故日までの届出勤務日数

トラック及びハイ・タクは休日明けが最も多く、バスは休日から2日後が最も多くなっている。



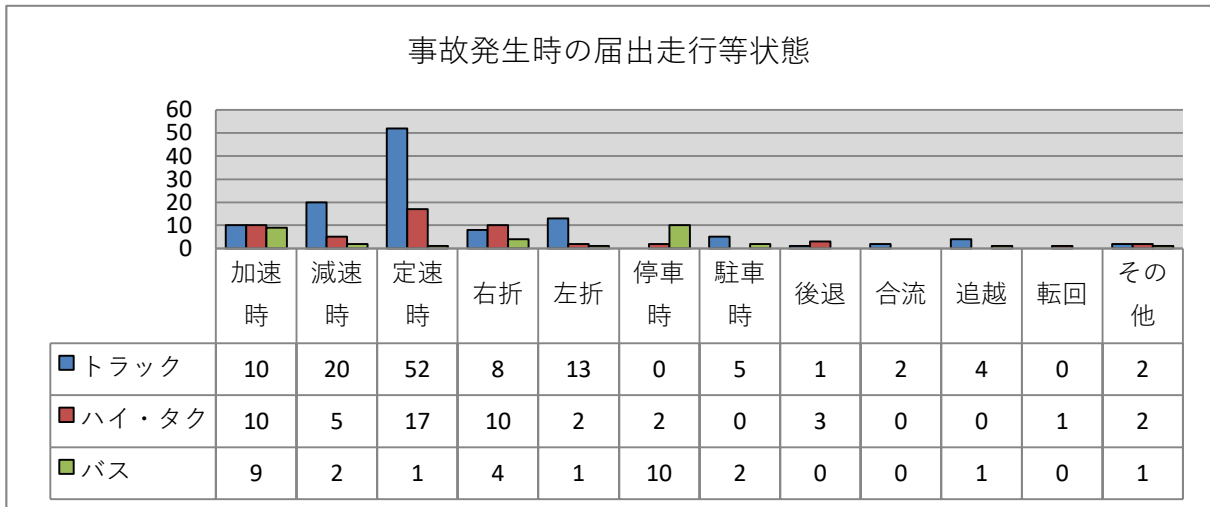
(6) 休日から事故日までの届出乗務距離

全業態で走り始めの0~100kmまでの事故が多くなっている。



(7) 事故発生時の届出走行状態

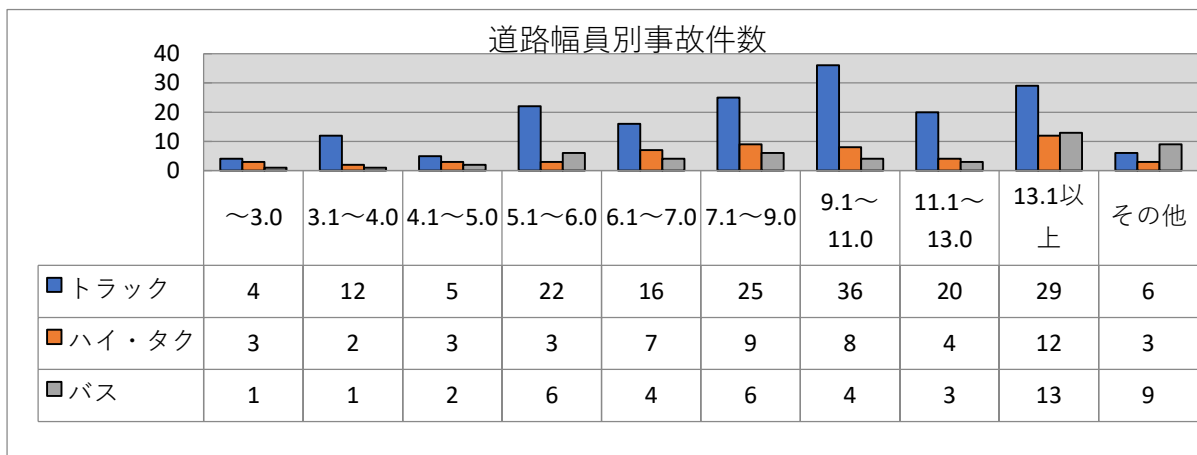
トラック及びハイ・タクは定速時の事故が、バスは停車時の事故が最も多くなっている。



10. 事故発生地点の届出道路状況

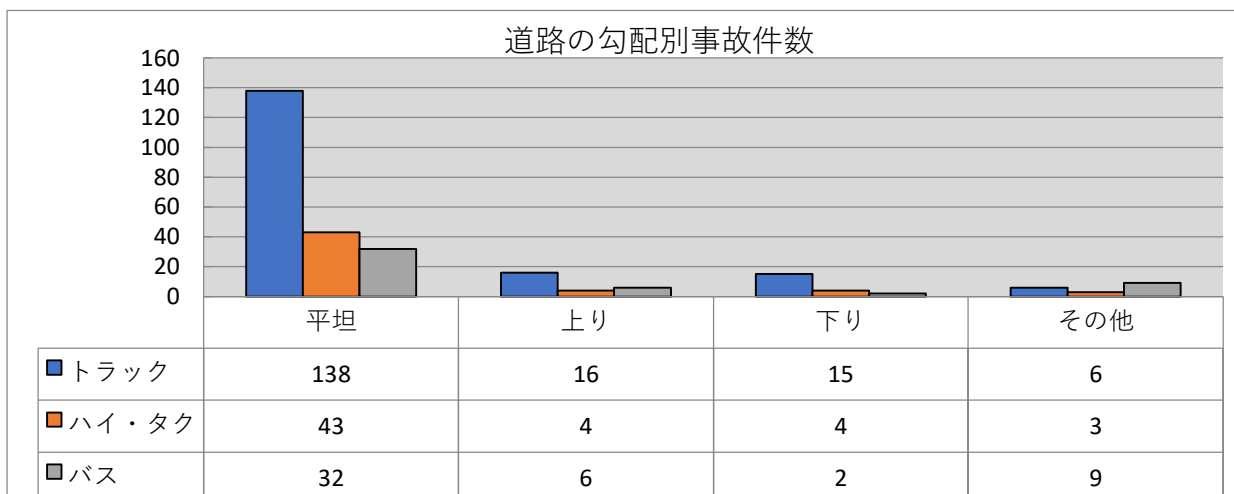
(1) 道路幅員別事故届出件数(車両故障は除く)

トラックは9.1m～11.0mの道路で最も多く、ハイ・タク及びバスは13.1以上の道路で最も多かった。



(2) 道路の勾配別事故届出件数(車両故障は除く)

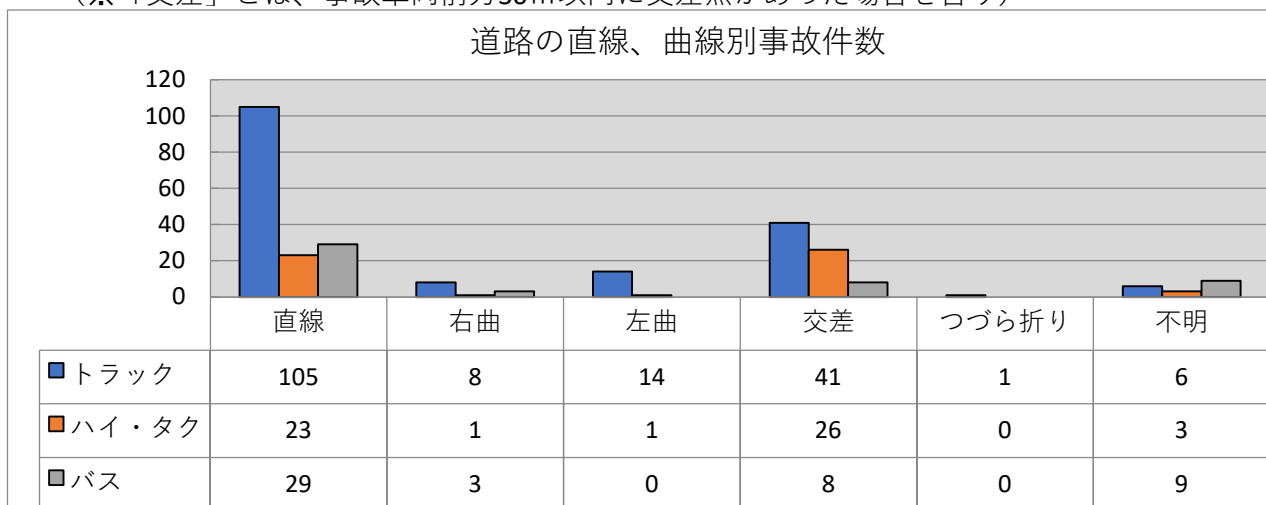
全ての業態で平坦道路の事故が最も多くなっている。



(3) 道路の直線、曲線別事故届出件数(車両故障は除く)

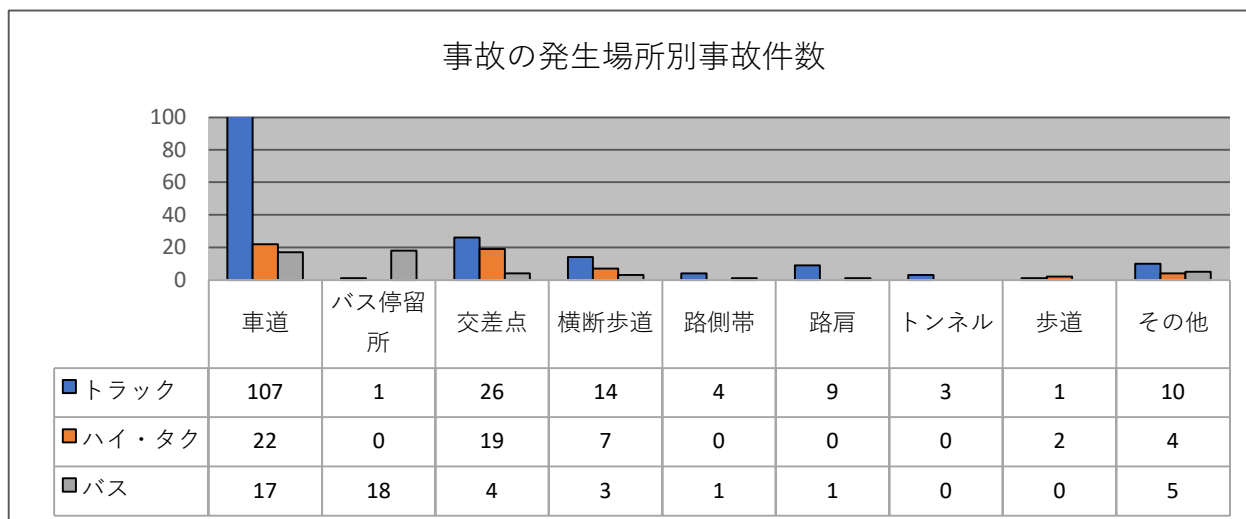
全ての業態で把握された中では、直線及び交差※での事故が大半を占めている。

(※「交差」とは、事故車両前方30m以内に交差点があった場合を言う)



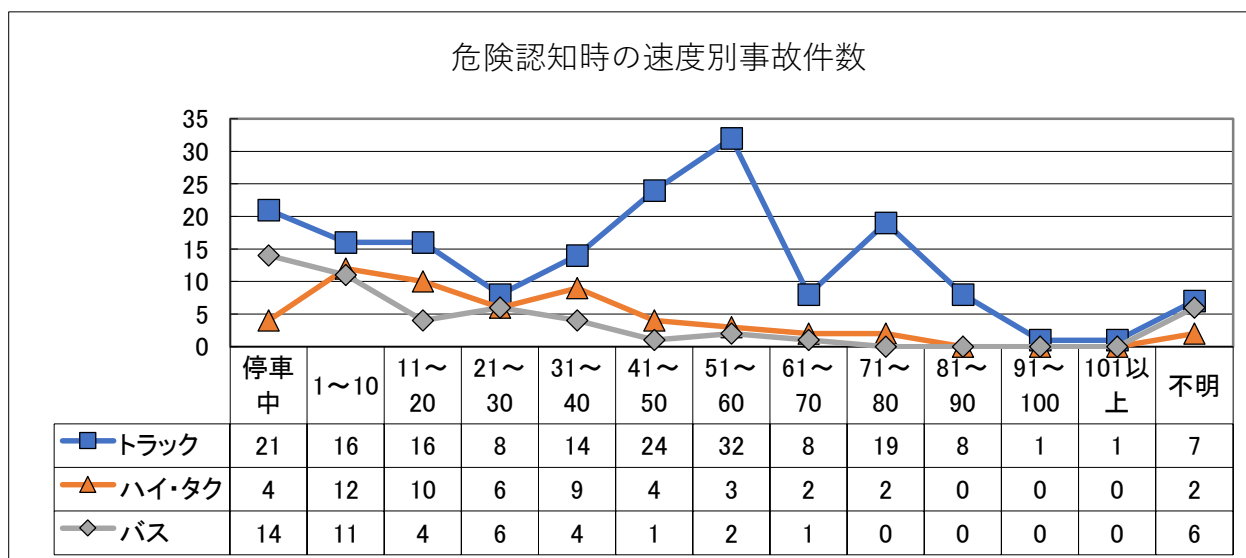
(4) 事故の発生場所別事故届出件数(車両故障は除く)

トラック及びハイ・タクは車道が最も多く、バスはバス停留所が最も多くなっている。



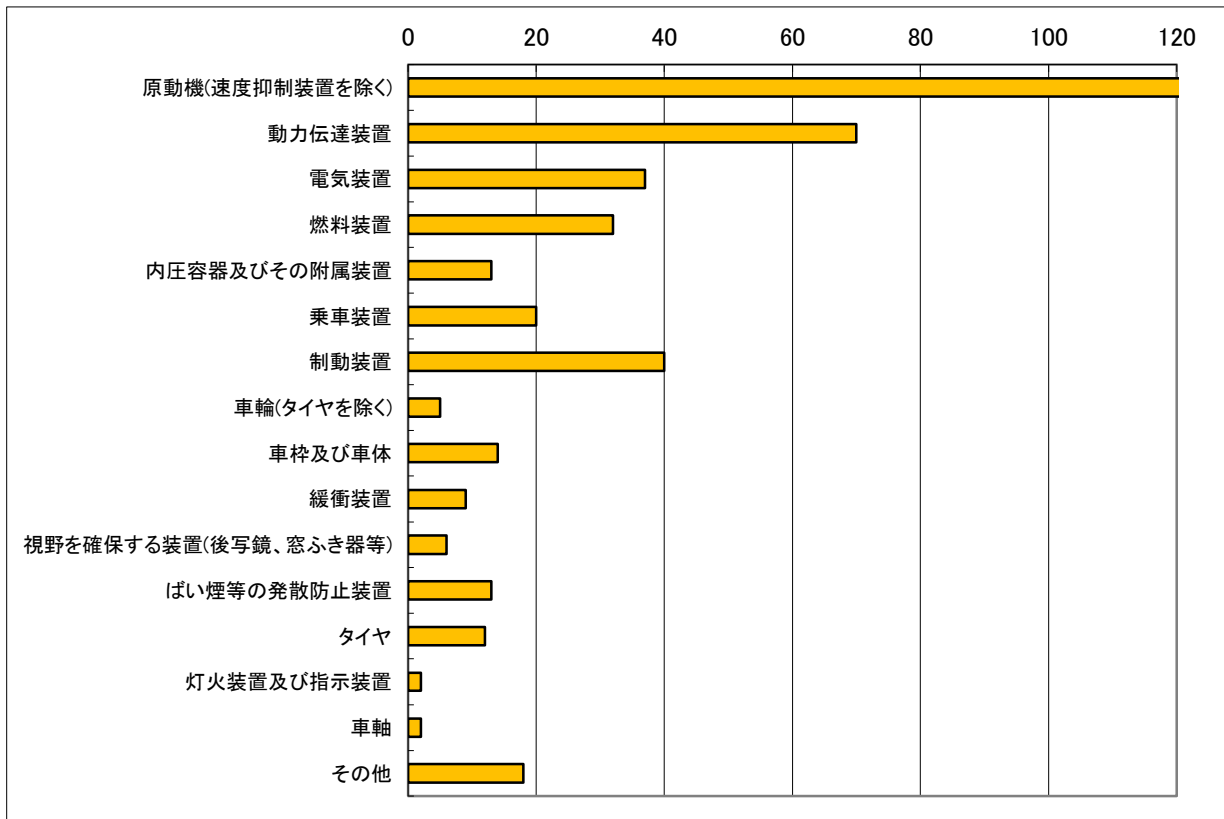
11. 危険認知時の速度別事故届出件数(車両故障は除く)

トラックは51～60km/hが、ハイタクは1～10km/hが、バスは停車中が最も多くなっている。



12. 車両故障に係る事故届出件数

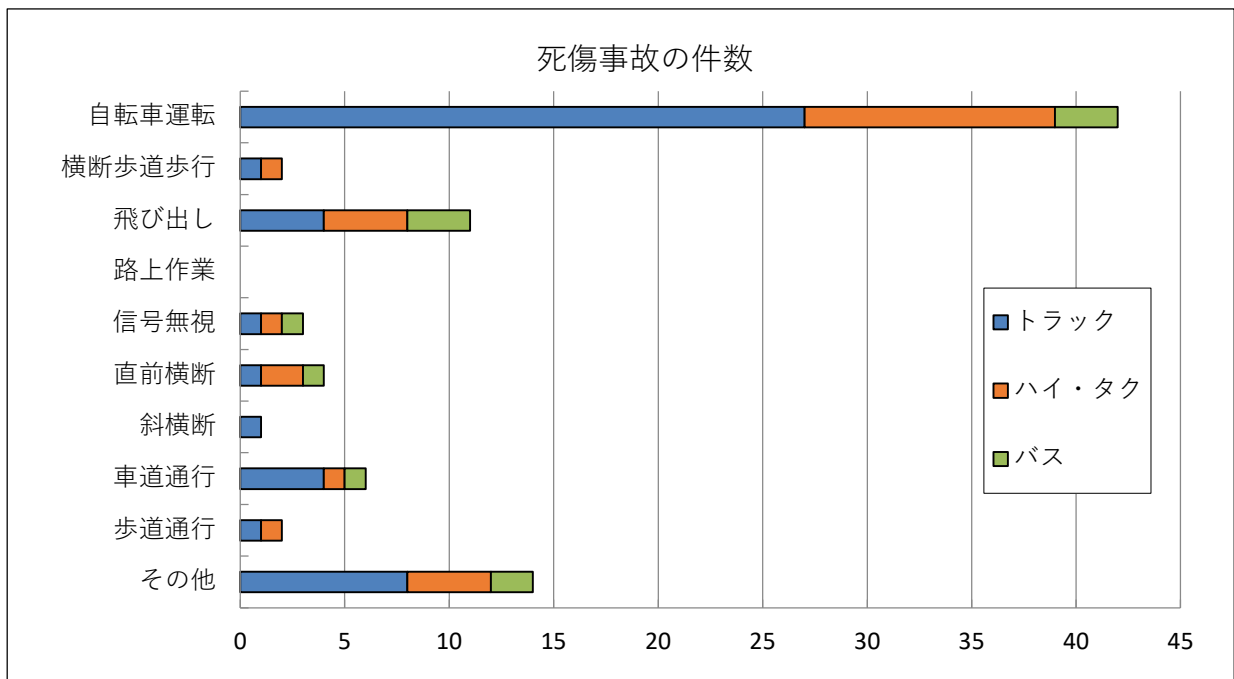
車両故障は417件あり、原動機が最も多く、動力伝達装置、制動装置の順となっている。



13. 死傷・衝突事故の届出内訳

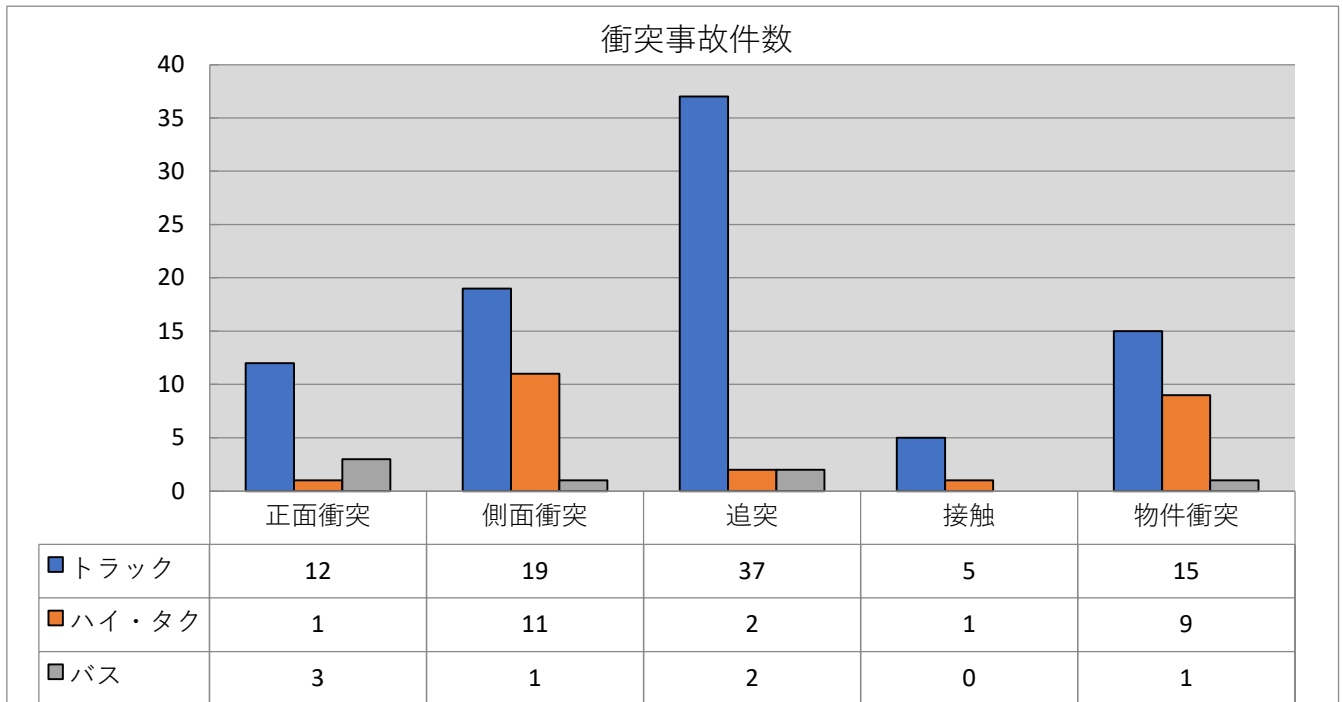
(1) 死傷事故(車両故障を除く)

死傷事故は、自転車運転及び飛び出しによる事故が多い。



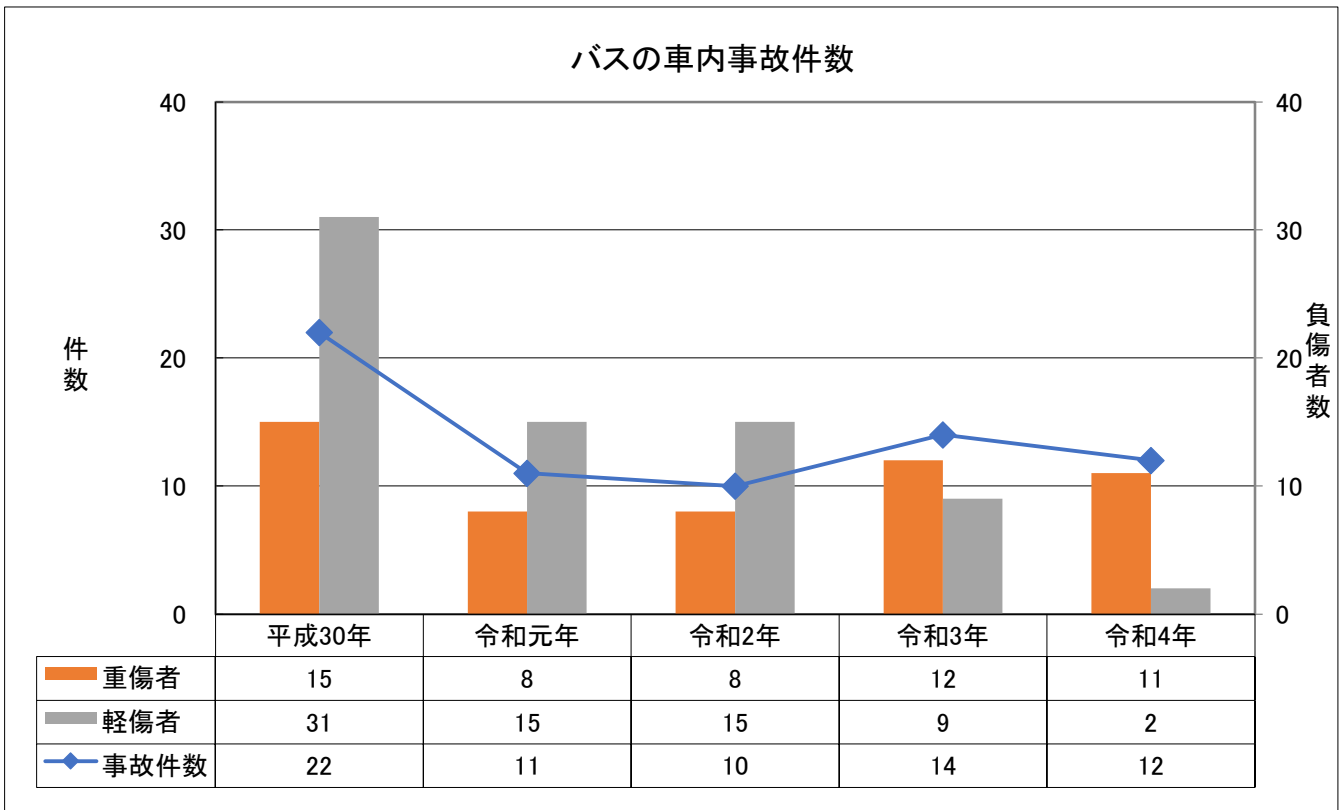
(2) 衝突事故

トラックは追突、ハイ・タクは側面衝突が最も多くなっている。



14. バスの車内事故届出件数

バスの車内事故は、事故届出件数及び届出負傷者数は前年より減少している。



15.まとめ

令和4年中に近畿運輸局管内の事業用自動車が引き起こした交通事故件数は4,983件で、交通事故死者数は36人であった。

自動車事故報告書の届出件数をみると、車両故障がほぼ6割を占めており、バスが最も多い。死者数についてはトラックが最も多く、事故の種類としては衝突が約半数を占めている。

なお、事故発生の時間帯別でみると、バスは6時～19時まで、トラックは5時～14時までが多く、運転者の年齢別では、バスは55歳～59歳、ハイ・タクは65歳以上、トラックは50歳～54歳が多く、経験年数別では、ハイ・タクは5年～15年、バス及びトラックは25年以上の運転者による事故が最も多くなっている。

また、事故発生までの乗務距離および勤務日数をみると、全業態を通じて乗務開始から50kmまで、休日明けに多くなっている。

さらに、死傷事故(自動車対自転車もしくは対人との事故)の発生状況を見ると、被害者が自転車を運転中及び車道への飛び出しによるケースが多くを占めている。

衝突事故についてはハイ・タクについては側面衝突が、トラックについては追突が最も多くなっており、高速自動車国道・自動車専用道における事故件数についても、108件中72件がトラックで突出して多く、死傷者数についてもトラックが大半を占めている。

